令ONE TEAM

～誰もが輝く令和時代～

令和元年度

男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業 研修報告書

令和元年度（２０１９年度）
男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業研修報告書

目次

挨拶

◇熊本県男女参画・協働推進課長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
◇研修生代表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2

研修生名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

年間事業スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4

研修レポート

◇事前研修　令和元年８月３０日（金）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
◇県外研修　令和元年１１月８日（金）～１０日（日）
　　研修日程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
　　視察１ 国立女性教育会館 事業説明・施設見学・・・・・・・・・・・・・・・・・P11
　　講話１「～男女共同参画の視点で考える～ひとり一人が主役の地域づくり」・ P13
　　講話２「ふるさと水俣で～いなか学校の取組み」・・・・・・・・・・・・・・・ P15
　　視察２ エセナおおた 事業説明・施設見学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P17
　　交流「意見交換会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P19
　　講話３「メディアを読み解くチカラをつけよう」 ・・・・・・・・・・・・・・ P27
　　講話４「イクメンとイクボスが社会を変える」・・・・・ ・・・・・・・・・・ P29
　　講話５「１枚のチラシ作りからデザインの基礎を学ぼう」・・・・・・・・・・ P31
　　解団式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P33
◇事後研修　令和２年１月２０日（月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P34

個人レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P36

自主研修報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P52

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P74

挨拶

我が国では、平成１１年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、その前文において、男女共同参画社会の実現は２１世紀の日本社会を決定する『最重要課題』と位置付けられています。

また、平成２７年には、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が制定され、職業生活において女性の個性と能力を十分に発揮できる社会基盤づくりが重点的に推進されています。

本県では、平成１３年に「熊本県男女共同参画推進条例」を制定するとともに、「熊本県男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた様々な施策を行って参りました。現在は、「第４次熊本県男女共同参画計画」及び、産学官民の連携により平成２７年に策定した「熊本県女性の社会参画加速化戦略」に基づき、固定的性別役割分担意識の解消や、労働・政治・地域などあらゆる分野における意思決定過程への女性の参画拡大のための取り組みを行っています。

男女共同参画社会の実現には、行政だけでなく県民の皆様の理解と主体的な取り組みが重要です。このため、県では、地域・職場・家庭などの身近な場所で男女共同参画推進のけん引役となる人材を育成することを目的として、「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業」を実施しています。昭和５８年度から実施しているこの事業は、これまで９４０名の修了生を送り出しており、修了生の皆様は県内各地の様々な分野で活躍されています。

今年度も、意欲溢れる２０名の方々が参加され、男女共同参画の基礎から、地域づくりやメディア・働き方・防災等における男女共同参画の視点、自主企画研修まで様々な学びを深められました。

この報告書は、研修生の皆様が約５か月間、男女共同参画について学び、社会の課題に向き合い、仲間とともに考え、語り合った記録です。この報告書を通して、本事業及び男女共同参画への理解が一層広がり、誰もがいきいきと暮らせる熊本づくりに繋がることを期待しています。

最後に、研修生の今後益々のご活躍を祈念しますとともに、本事業実施にあたり、講話や視察の受け入れなど、格別の御尽力を賜りました関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

令和２年３月

熊本県環境生活部県民生活局
男女参画・協働推進課長
真田　由紀子

研修生代表挨拶

毎日の生活の中で、幸せを感じる瞬間がどれくらいありますか。幸せを感じる余裕もなく慌ただしく日常に追われていませんか。色々な人の生活の在り方があり、色々な『幸せ』があります。価値観もその人が辿ってきた今までの人生も人それぞれ違うから、相手を理解することも、自分を理解してもらうことも、社会において容易ではありませんね。

『男女共同参画』という言葉は、一見男女という言葉に囚われがちですが、男だから、女だからではなく、一人一人が自分らしく自分の力を発揮できることを目指すものであります。「〇〇だから」という先入観や枠にはまった考えが、自分や誰かの行動や想いに制約を与えていることに気づくこと。そして、その制約のない自由で一人一人が本来の自分らしさを発揮し、想いを行動に移し活躍できるように、地域の皆さんに働きかける役割を担うことが私達、男女共同参画社会作り地域リーダー育成事業の研修生の努めだと考えています。

私達は誰もが生まれたときから『オンリー１』の存在。できることも、できないことも、一人一人違います。だから、繋がり合う良さがあり、繋がり合うことでよりステキな熊本の未来が描けます。

『一人ではできないことも、君となら。』子ども達と見たアニメの映画のキャッチコピーです。私達は一人一人でできることもあるから、ときに一人でできることに終始し、できないことには目を塞ぎがちです。だけれど、人と手を取り合うことで、新たな可能性が広がれば、今まで諦めていたことが可能になります。
一人一人が自分らしい輝きを発揮できる地域を目指して、活き活きと幸せに満ちた笑顔の溢れる熊本にしていきましょう。

この研修にあたり各々の地域からお集まり頂いた研修生の皆さん。皆さん、お一人お一人に、想いと魅力があり、出会えたことに感謝しています。
また、この研修において多大なご尽力をいただいた県男女参画・協働推進課の黒瀬様、宮地様、井上様にこの場を借りて、感謝申し上げます。

令和元年度男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業、研修生の団長として、北極星のように、皆さんの一つの目印となれるように、私自身も男女共同参画が実現する幸せな地域作りの為に日々精進して参ります。これから、地域で活躍される皆さんの発信や繋がりを大切にし、皆さんと共に熊本の未来に光を照らしていけるようにと思います。
この想いを胸に、一歩一歩。

令和元年度研修団　団長
黒崎　麻子

研修生名簿

《１班》　班長：石田　啓子

氏名	市町村	区分
石田　啓子	熊本市	一般
池辺　豊美	合志市	一般
管澤　徳子	合志市	市町村職員
野山　ひろみ	大津町	一般
松本　美由紀	大津町	市町村職員

《２班》　班長：黒崎　麻子

氏名	市町村	区分
中竹　美由紀	荒尾市	一般
黒崎　麻子	荒尾市	一般
諸冨　友木	荒尾市	市町村職員
吉田　公美	玉名市	一般
松本　卓也	和水町	市町村職員

《３班》　班長：福山　節子

氏名	市町村	区分
福山　節子	山鹿市	一般
林田　好子	山鹿市	市町村職員
工藤　麻里	菊池市	市町村職員
田中　悦子	長洲町	一般
木村　可奈子	長洲町	市町村職員

《４班》　班長：村上　雅宣

氏名	市町村	区分
園田　百合枝	天草市	市町村職員
川島　ひとみ	宇城市	一般
村上　雅宣	宇城市	市町村職員
谷川　淳子	益城町	一般
岩下　幸子	益城町	市町村職員

年間事業スケジュール

項目	日程	内容
研修参加者募集	４月２６日（金） ～ ６月１４日（金）	・募集人数２５人 （一般研修生１５人、市町村職員研修生１０人）
研修参加者決定	７月　４日（木）	・研修参加者２０人 （一般研修生１０人、市町村職員研修生１０人）
事前研修	８月３０日（金）	・男女共同参画に関する基礎研修 ・県外研修オリエンテーション
県外研修	１１月　８日（金） ～ １１月１０日（日）	・県外の拠点施設の見学（国立女性教育会館、大田区立男女平等推進センター） ・県外講師による男女共同参画講話 ・県外の男女共同参画リーダー等との交流
自主研修	１１月～１２月	・研修成果を生かした自主企画の実践 （研修報告会、男女共同参画をテーマとした研修会等）
事後研修	１月２０日（月）	・自主研修の成果発表 ・過去の修了生等による活動紹介 ・今後の活動に向けた意見交換
研修報告書作成	１月～３月	・研修レポート等の編集・印刷・製本
修了証交付	３月中旬	・研修終了証の交付

研修レポート

事前研修

［日時］8 月 30 日（金）10:00～15:30
［場所］くまもと県民交流館パレア
［記録］宮地 景子（熊本県）

［事前研修のメニュー］

１　開会（男女参画・協働推進課長挨拶）
２　事業説明（男女参画・協働推進課・男女共同参画センター）
３　講義「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」
　　熊本大学法学部　鈴木 桂樹 教授
４　講義「男女共同参画の現状」
　　男女参画・協働推進課
５　県外研修オリエンテーション
　①県外研修の概要説明
　②班別グループワーク（自己紹介、意見交換計画作成等）
　③団長決定

［講話］

「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」
熊本大学法学部　鈴木 桂樹 教授

男女共同参画社会の意義や背景、求められる男女共同参画社会像についてお話しいただき、基礎的な知識や新たな気づきを得ることができた。

○男女共同参画社会とは

性差には、生物学的・生理的性差（ｓｅｘ）と、社会的・文化的・歴史的につくられた性差（ｇｅｎｄｅｒ）がある。後者について、何を「男らしさ」「女らしさ」とするかは、国や地域によって異なり、時代と共に変わりゆくものでもある。「男だから」「女だから」ではなく、一人ひとりが「違う」ことを前提として、それぞれが力を発揮できる社会が男女共同参画社会である。

○なぜ、いまなのか

戦後、男女平等のための個別の施策がなされてきたが、今なお男女平等実現には至っておらず、一層の努力が必要である。また、労働力不足やグローバルな経済競争が激化する中で日本が生き残っていくため、量と質の両面で人材をフル活用する必要が生じている今、人材戦略としても男女共同参画が求められている。

○どんな、男女共同参画社会なのか

多くのデータは日本が男性優位社会であることを示しているが、自殺者は男性の方が圧倒的に多く、集団としての男性と個々の男性の生きやすさは一致していない。これには、「男は強くなければ」「大黒柱」など、固定的な男性像が依然として社会や男性自身を縛っていることが一因として考えられ、男性の生き方の変革は男女共同参画の柱の一つとなる。

また、多様な人材の能力を引き出し、新たな価値を創造していくことが企業経営において不可欠と言われているが、採用段階で多様な人材を取り入れても組織の中で同じ方向を見て仕事をするうちに多様性は消えていく。一人ひとりが組織の外で様々な経験を積むことで多様性は維持されるものであり、そのために重要となるのがワーク・ライフ・バランスである。

［講話］

「男女共同参画の現状」

男女参画・協働推進課　宮地 景子

各種データを用いながら男女共同参画の現状についての説明を行った。

・男女の平等感、男女平等についての国際比較
・職業分野における男女の格差（地位、賃金）
・男性の家事育児関連時間
・地域の意思決定への女性の参画
・ＤＶの状況

［オリエンテーション］

班別グループワーク（自己紹介、意見交換計画作成等）

班に分かれ、自己紹介や県外研修での役割決めの他、県外研修での意見交換テーマについて話し合いが行われた。

【１班】男女共同参画の視点で考える防災

【２班】男女共同参画の視点から考える防災・危機管理

【３班】女性が働きやすい社会

【４班】男性の家庭参画を進めるために必要なこと

県外研修日程

	11月8日（金） ＜1日目＞		11月9日（土） ＜2日目＞	
8				
9			9:10	ホテル集合・出発［徒歩］
			9:30	エセナおおた　到着
10			9:40	**講話2**　9:40～11:10（90分） **「ふるさと水俣で～いなか学校の取組み」** 藤本有希氏（一社ハートリレープロジェクト代表理事）
11				［休憩　11:10～11:20］
	11:30	**羽田空港集合・出発**	11:20	**事業説明・施設見学**　11:20～12:20（60分）
12		［移動（貸切バス）］	12:20	**昼食兼交流会**　12:20～13:20（60分）
13	13:20	国立女性教育会館　到着		
	13:30	**国立女性教育会館事業説明**　13:30～14:00（30分）	13:20	**交流・意見交換会**　13:20～15:20（120分）
14		［移動・休憩 14:00～14:10］		
	14:10	**施設見学**　14:10～14:40（30分）		
		［移動・休憩　14:40～15:00］		
15	15:00	**講話1**　15:00～16:30（90分） **「～男女共同参画の視点で考える～ ひとり一人が主役の地域づくり」** 萩原なつ子氏（立教大学社会学部教授）		
				［休憩　15:20～15:30］
16			15:30	**講義3**　15:30～17:00（90分） **「メディアを読み解くチカラをつけよう ～ジェンダーの視点から～」** 田中東子氏（大妻女子大学文学部教授）
	16:45	国立女性教育会館　出発		
17			17:10	エセナおおた　出発［徒歩］
		［移動（貸切バス）］	17:30	ホテル（ホテルサンルートパティオ大森）　到着
18	18:30	ホテル（ホテルサンルートパティオ大森）　到着		

	11月10日（日） ＜3日目＞	
8		
	8:30	ホテル集合・出発［徒歩］
	8:45	会議室（TKP　Luz大森カンファレンスセンター） 到着
9	9:00	**講話4**　9:00～10:30（90分） **「イクメンとイクボスが社会を変える」** 東浩司氏（NPO法人ファザーリングジャパン理事）
10		
		［休憩　10:30～10:40］
	10:40	**講話5**　10:40～12:10（90分） **「一枚のチラシ作りからデザインの基礎を学ぼう」** 柴崎久美子氏（アートディレクター）
11		
12	12:10	**解団式・解散**
13		
14		
15		
16		
17		
18		

「独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）
事業説明・施設見学」

［日時］　11 月８日(金)13：30～14：40
［場所］　国立女性教育会館
［記録］　野山 ひろみ（１班）

■事業概要

１９７７年設立。女性教育指導者及び女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的としている。

その目的を達成するため、「研修」「調査研究」「国際貢献」「広報・情報発信」の４つを連携させながら各種事業を展開している。

■事業説明

講師：NWEC 事業課長　仁木 氏

研修事業

男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施

① 女性活躍推進のためのリーダーの育成
（地域における男女共同参画推進リーダー研修・男女共同参画推進フォーラムなど）

② 次世代を担う女性人材の育成
（女子中高生夏の学校 2019～科学・技術・人との出会い～）

③ 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成
（女性関連施設相談員研修）

④ 教育分野における女性参画拡大に向けた取り組み
（学校における男女共同参画研修・大学等における男女共同参画推進セミナー）

調査研究事業

男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施
① 男女共同参画統計に関する調査（ジェンダー統計）
② 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究（正規職の 5 年間追跡調査）
③ 学校教育における男女共同参画の推進に関する調査研究（女性教員の活躍推進研究）

国際貢献事業

① アジア地域での男女共同参画推進のための人材育成（アジア地域男女共同参画推進官・リーダーセミナー）
② 国際的課題への対応（グローバルセミナーなど）

広報・情報発信事業

① 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信（男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館の設置・NWEC 実践研究の刊行）
② 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進（ベアテ・シロタ・ゴートン展・女性と医学展など）

■施設見学
案内：ボランティアガイド

１０ヘクタールの広大な敷地に研修棟、宿泊棟、体育施設、日本家屋施設があり、女性・男性を問わず利用できる。６００人が収容でき、国際会議にも使用される講堂のイスには全てに記載台が設置されており、講義を聞きながらメモが取りやすいように工夫されている。これは設立時に女性の視点を取り入れたことによるものである。

2015 年からはＰＦＩ（プライベート･ファイナンス･イニシアティブ）制度を取り入れ、ＮＷＥＣの充実した施設を有効利用し、男女共同参画イベントとコラボさせて集客率の向上を図っている。
また、ロビーにはＮＷＥＣで開催される研修の案内ポスターの掲示、男女共同参画関連の書籍の紹介コーナーがあり、展示方法等とても参考になった。

講話１「～男女共同参画の視点で考える～ ひとり一人が主役の地域づくり」

講師：立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授　萩原 なつ子 氏

［日時］11 月 8 日(金)15：00～16：30
［場所］国立女性教育会館
［記録］吉田 公美(2 班)

【講師紹介】

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授。専門は協働、ジェンダー、NPO、持続可能な社会。

●日本における男女共同参画の流れ

☆日本国憲法
1946 年 11 月 3 日 公布
第 13 条「法の下の平等」第 24 条「家庭生活における両性の平等」

☆男女差別撤廃条約の批准
1980 年 署名　1985 年 批准
男女の定型化された役割に基づく偏見及び習慣その他あらゆる慣行の撤廃を実現することを目標

・男女雇用機会均等法(1985 年)
女性の経済的自立と、職場における男女差別の撤廃を目指した法律

・男女共同参画社会基本法(1999 年)
性別にとらわれずに、多様な生き方、働き方を選択できる社会

・ワークライフバランス憲章 (2007 年)
仕事と生活の調和

・育児･介護休業法(2016 年改正)
仕事と育児、介護が両立できる、調和のとれた生活を提供することを趣旨とする制度

・女性活躍推進法(2016 年)
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律

・政治分野における男女共同参画推進法(2018 年)

●無意識のバイアス(Unconscious Bias)とは

誰もが潜在的に持っているバイアス(偏見)
⇒　先入観

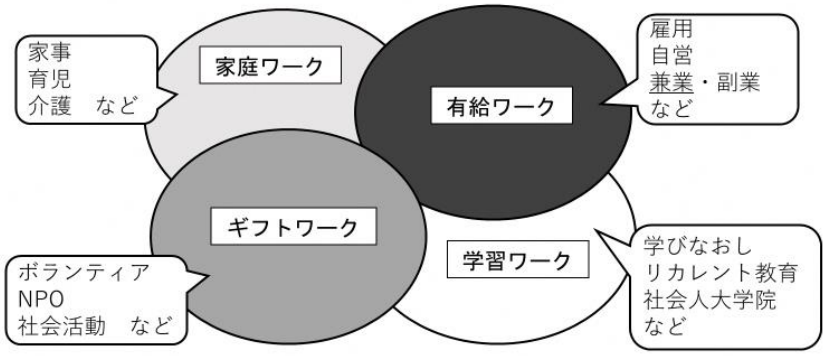
・その１(ステレオタイプ)
女性は政治に向かない、数字に弱い。
女性は細やかな心遣いができる、男性はたくましい。etc

・その 2(属性に基づくバイアス)
　性別、人種、国、宗教、学歴、職業など。身内意識でよそ者排除。　etc
・その３(些細な侮辱)
　無自覚に横柄な態度、存在を無視、女の子と呼ぶ。　etc

～さよなら！昭和・平成的価値～
「女は子供を産んで一人前」「子育ては母親の役割」「介護は嫁の役割」
「男は一家の大黒柱」「男子厨房に入らず」「男のくせに」「女のくせに」　etc

●4 つのワーク

日本の特徴　男性は家庭ワーク、ギフトワークが少ない。
　　女性は有給ワークが極端に少ない。



●日本のジェンダーギャップ指数は先進国最低水準評価！！

世界経済フォーラム（WEF）による男女格差の度合いを示す「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」2018 年版が 2018 年 12 月に発表された。調査対象となった 149 カ国のうち、日本は 110 位で、世界の主要 7 カ国の中で最下位であった。

⇒第 70 回国連総会で採択された「持続可能な開発目標ＳＤＧｓ」(2030 年までの達成をめざす国際目標)
全１７の目標のうち、５つ目が「ジェンダー平等」。
日本における課題として、「議員の数」「管理職」「女性の視点」「男性の家庭、地域への参画促進」「地域における女性の活躍の加速」などがある。

●萩野氏の関わった豊島区での活動

東京 23 区で唯一消滅可能性都市となった豊島区。

2014 年に「としま 100 人女子会」開催→学識経験者、女子会参加者、区職員等で構成される「としまＦ１会議の開催」→区長にプラン発表→2015 年 2 月.区民の意見を直接反映した 11 事業 8800 万円の予算化に成功⇒女性が住みやすい街作りに向け現在も活動は継続中。

【感想】

わずか 270 日間で女性の活動のパワーを議会にぶつけ、諸改革を実現するための予算を勝ち取った活動に感銘を受け、勇気が出た。熊本での改革のためにはどのような方法がいいのか地域にマッチした方法を検討、模索しながら活動をしていきたい。

講話２「ふるさと水俣で
～いなか学校の取組み～」

講師：一社ハートリレープロジェクト 代表理事　藤本 有希 氏

［日時］11 月 9 日(土)9：40～11：10
［場所］大田区立男女平等推進センター エセナおおた
［記録］工藤 麻里（3 班）

【講師紹介】
・一般社団法人ハートリレープロジェクト 代表理事
・熊本県水俣市出身
・経　歴：2017 年 6 月まで大手銀行系関連会社で
　　フルタイム勤務。以降、半ばフリー、
　　自己流の働き方改革中。
・その他：NPO で「ふるさと活性化プロジェク
　　ト」に取り組む他、二人の子育て、
　　PTA 活動など。
・委　員：環境省国水研みなまた地域創生ビジョ
　　ン研究会委員（2015-16）
　　熊本大学教育学部同窓会東京支部長

【「いなか学校」について】
　水俣市を帰省先に持つ子どもたちに、夏休みなどの長期休暇を祖父母らの住む水俣市で過ごしてもらい、日中に、「いなか学校」と題し自然体験や地元の産業に触れるような体験プログラムを取り入れた学童保育を実施する取り組みを行っている。この取り組みは、子どもたちの健全な育成を行うとともに、父母の故郷への愛情を育て、次世代のまちづくりの担い手、リーダーを育成することを目的としている。

１　なぜこんなことをすることになったのか、ことのおこり
→自らの人生の歩みの中で、身におきた課題をなんとかしなければという思いから。
① 文系大学院卒女子は、就職説明会すら出られない。仕事が見つからないという就職の壁。
② 子どもを出産した後は、仕事と育児の両立の厳しさ、子どもが病気になると会社に迷惑をかける、居づらい、会社の理解がないという両立不安の壁。
③ 子どもを保育園に入れたくても、保育園に入れない、小学校でも学童保育に入れないといった W 待機児童の壁。

２　ふるさとを「堂々と自慢できる状況にしたい」という思い

→出来なかった、今もできない現状があるから。
水俣出身というと「あの水俣」と９割の人が言う。本当の海、今の水俣を知ってほしい、水俣の風評被害を払拭したいという思いが原動力に。

3　いなか学校へのこだわり

① 核家族で子育てする母親として
首都圏の厳しい子育て環境、子どもの遊び場を規制する窮屈な空気がある。

② 教職を目指していた教育学部出身者として
電車の中で小学校受験用に勉強する親子を見かける。初等教育の時期こそ実体験が必要なのではないかという思い。

③ 大学時代の卒業論文「まちづくり」の視点から
「都市化」することだけが「まちづくり」ではない、まちへの愛着を育むことこそ本当のまちづくり。「まちづくり」は、「ひとづくり」という思い。

④ 水俣といういなかで生まれ育った出身者として
帰省の度に寂れるふるさとに直面、母校の廃校、商店の廃業。東京で堂々と「水俣出身だ」と言えなかった思い。

4　これからのリーダーに必要なことは？あなたはなぜ今日ここに？

①人間は大切な人のためになら最大限に力を発揮できる。
②動機は自らの課題、原動力となったのは愛着。

【これからのチャレンジについて】

１　いなか学校プロジェクトの拡がり
・１０年間の開催で見えてきた、いなか学校の役割
・いなか学校プロジェクトの可能性
・いなか学校モデルが初めて自治体主体での開催へ

２　これからの日本と社会課題～ふるさとを守っていくには～
・世界の人が集まる日本～本当の共生社会を考える時代へ
・文化も宗教も全く違う外国人との共生・・・お互いが相手の立場で考えられる関係づくり（思いやり・譲り合い・尊重・尊敬）

【所感】

藤本氏は、自らの身にふりかかった課題をなんとかしなければという思いを形にし、行動にうつされている。その行動力・実行力にただただ感心するばかりだが、これで終わりではなく、これからも前を向き、チャレンジし続けておられる。私も講義を受けた一人として、自らの課題解決のために、出来ることから始めようと思う。

「エセナおおた　事業説明・施設見学」

事業説明：NPO 法人男女共同参画おおた　飯島 そのみ 氏

［日時］11 月 9 日(土)11：20～12：20
［場所］大田区立男女平等推進センター エセナおおた
［記録］岩下 幸子（4 班）

➢ センター概要

✧ 設置目的
男女共同参画社会の実現に資するとともに、区民の自主的な活動の場を提供する。

✧ 沿革
昭和 52 年　大田区婦人会館 開館
平成　4 年　おおた女性センター へ改称
平成 12 年　男女平等推進センター「エセナおおた」として開館
平成 16 年　指定管理者制度導入
指定管理者：特定非営利活動法人男女共同参画おおた

✧ 年間利用者 111,623 名（平成 30 年度）
自主事業参加者、講座参加者、相談室利用者、イベント参加者、貸し部屋利用者、図書・展示利用者、ボランティアスタッフ　など

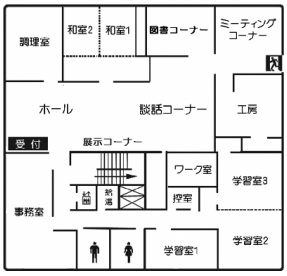
➢ 男女共同参画推進事業
第 7 期大田区男女共同参画推進プランに基づく。
基本理念「誰もが認めあい、笑顔がつながるまち　おおた　～おおたの男女共同参画社会をめざして～」

- 男性・子供にとっての意識啓発およびワークライフバランスの普及
- 男女共同参画に関する意識啓発事業
- 女性に対するあらゆる暴力の根絶事業
- 女性の就労支援
- 情報事業・展示事業・ライブラリー・広場事業・交流事業　など

➢ 施設

- カフェおひさま
コーヒー、茶菓子販売及びほっとするスペース提供。
NPO の自主事業として運営。
- 男女共同参画スペース
事業に関する展示スペース。
- 調理室・和室・学習室・工房・音楽室
各種講座や、自主事業にて利用、その他貸館として利用。

- 情報・図書コーナー
  男女共同参画に関する図書等を設置。また、館内のいたるところに新刊や現在実施している事業等に関する本を設置。
- 多目的ホール
  各種講演会、映画上映会など。親子で鑑賞できる親子室完備。
- こども室
  保育付の事業で利用。施設利用の際に利用可能。
- 相談室
  たんぽぽ相談として来所及び電話による相談受付実施。



➢ 総括

- NPO が講座受講者に対して活動の場の提供を行っており、学習成果の発表や各種イベントへの参加、更には施設の企画員や講師に登用、またはボランティアスタッフとして施設に関わり続けている。ボランティアスタッフ等の確保はなかなか困難なため、見習いたいポイントである。
- 多目的ホールに完備されている「親子室」が衝撃であった。配慮が行き届いた施設であると感心した。
- 全館を通して、男女共同参画に関する記事の切り抜きが張られていたり、関係する図書を様々なスペースに設置したりと目的を感じられる場所であるとともに、館内あちらこちらに手作りの折り紙が展示されていたりして、来館者の心を和ませ集える場所となっている。

交流「意見交換会（分科会）」

第１分科会　テーマ「男女共同参画の視点で考える防災」

［日時］令和元年 11 月 9 日(土)13：20～15：20
［場所］大田区立男女平等推進センター エセナおおた
［記録］池辺 豊美（１班）

【キーワード】「防災」

【意見交換の柱】
① 避難所運営について
② 避難所で配慮すべきこと

【課題に対するアドバイス】
① 避難所運営について
　避難所に避難される方は色々な方がいる。ＤＶの加害者から逃げていた被害者と、加害者が偶然同じ避難所に避難してきた実例を聞く。そのような方をどのように把握し、避難させるか等の問題がある。運営側、避難者側それぞれの立場で避難所での困難は違うが、避難所運営体験ゲーム「ＨＵＧ」を利用し、様々な出来事・事態に対し、どうするか考える機会を作る。その中で、気付きを得ることがある。
　また、災害や避難については、地域特性により状況もそれぞれ違うので、地元版のＨＵＧを作成し活用することが望ましい。エセナおおたでは、女性の視点から作成したオリジナルのＨＵＧを作成し、それを使用した研修を実施している。

② 避難所で配慮すべきこと
　災害発生後は、性犯罪などの女性が被害にあう事例が増えると言われている。東日本大震災時、避難所で女性が性被害にあったそうだ。自分の身を守ることや性に関する情報をなるべく早い時期から正しく認識させる必要がある。親からは話しにくいので学校で教育して欲しいという考えではなく、学校、家庭の両方での教育が必要である。それには、日頃から親子間での会話、家庭内コミュニケーションも重要である。医師など正しい知識をもった人に講演等をお願いするのも良い。
　また、被害にあった女性は、誰にも相談することができずにいる人も多い。被害にあったとき直ぐに相談できる窓口を知っておくこと、早急な対応が最も大切であることを伝えていく。エセナおおたでは、日頃から情報を発信し、相談窓口や受入体制を強化している。

【感想】

私達の身の回りには、直接、災害に繋がるような自然現象（地震、火山噴火、豪雨、台風など）が多く存在する。これらの自然現象が私達にとって「災害」となるかどうかは私達の日頃からの心構えによって変わってくる。地球が活きていて、そこに人間が住んでいる限り、自然災害を100%なくす事は不可能である。しかし私達の心構えによってその度合いは少しでも軽減させることはできる。そのためには、自然現象そのものを理解する事、自分の身の回りには実際にどのような自然現象が起こり得るのかを知っておく事、そしてそれぞれの自然現象が起こった場合に自分や家族はどのような対応、行動をするべきかを考えておく事（これはそれぞれの人によって条件は違うはずである）が重要であると考える。＝**「自助」**

地域防災での避難所運営等には地域コミュニティ力の向上が必要である。そのためには、顔が見える関係づくりが必要だと思う。現在、地域で様々なグループ等で個々に活動されている方はいるが、グループをつなぎ合わせ、交流を持つことで、災害が起こった際にも助け合い、避難所についても個々がもつ個性や能力を生かし、よりよい運営ができると考える。＝　**「共助」**

災害時には自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで、被害を最小限にでき、早期の復旧復興にも繋がる。自助、共助について、男女共同参画の視点を取り入れながらもう一度防災について考え、今後、地域でも取り入れていきたい。

交流「意見交換会（分科会）」

第２分科会　テーマ「男女共同参画の視点から考える防災・危機管理」

［日時］　11 月 9 日(土)13：20～15：20
［場所］　大田区立男女平等推進センター エセナおおた
［記録］　中竹 美由紀（2 班）

事前研修において２班では、県外研修の意見交換会に備え「防災意識が低いため、住民が危機感を感じていない。」「地域には高齢者が多く、昔ながらの慣習が男女共同参画の意識を低くしている。」「地域の交流が薄くなっており、情報のやりとりがしづらくなっている。」という地域の現状や課題を挙げ、意見交換会のテーマを上記のように決定した。

エセナおおたでは、それぞれが経験したことや事前学習をもとに、職員の方々との意見交換を実施し、限られた時間であったが多くの指標を得ることが出来た。

１　災害時における現状や問題点

（１）性犯罪が増加するが報道されないことが多い。問題視しないと犯罪は減らない。
（２）行政職員で災害時に呼びだされるのは男性職員がほとんどであり、女性の意見が反映されない。災害対策本部などに女性が少ない。
（３）避難所の運営において準備不足のものが次々と出てくる。また、避難所には何でもあると思って何も持ってこない避難者もいる。
（４）仕事を持っている母親が、勤務の特性上子供を置いて出勤しなくてはならない事もあり、不安を抱えたまま就労する状態となる。夫婦ともに出勤というケースもある。
（５）この家は大丈夫とか家を守るなど様々な理由から老人が避難したがらず、自宅に残るケースが多い。

２　解決には何が必要か

（１）性被害を未然に防ぐためには、色々なところに性犯罪防止のポスターを貼ることでかなりの効果が得られる。

　また、死角をつくらず、見回りなどの抑止できる環境をつくることが重要である。その為には避難所運営に女性の存在が欠かせない。

（２）阪神淡路大震災の時には、女性が対策本部にいなかったためにトイレの問題などが発生した。災害対応に女性の意見を反映させるためには対策本部に限らず、男性と対等に意見が言える女性のリーダーや、各組織における女性の登用が必須である。

（３）いざという時に避難所が機能を十分に発揮するためには、事前に最悪の事態を想定した訓練を年に１回でも実施しておくべきではないか。その際、各施設のリーダーや役割分担を決めて、内部配置や必要物品、動線などの検証を行っておけば、スムーズに運営できると考える。地域住民も参加できればなお良い。平時に出来ないことが非常時に出来るとは思えない。

（４）最悪の場合、自宅が被災していても出勤しなくてはならない人もいる。夫婦ともども出勤となれば、どこに子供を託すのか。自衛隊では災害派遣などの際には、隊員のための託児所が開設される。その為、呼集訓練の際には託児所も機能訓練を実施する。企業や地域などにおいても検討してみてはどうだろう。

（５）老人にはそれぞれに生き抜いてきた環境及び長い歴史があり、それを否定してはいけない。老人の意見を尊重しながらも、「その方法もありますが、別にこのような考え方や対処法もありますよ。」と優しく促していくことが大事である。

　逃げ遅れた場合、老人に限らずスムーズに避難所に行けるだろうか。避難所はこちらですという標識は停電を伴う災害時に見えるだろうか。道路に蛍光色の大きな矢印をペイントしておくなど検討する余地はないだろうか。

３　まとめ

　参加者一人一人が持つ知識や経験から貴重な話や意見を沢山聞くことができ、充実した意見交換会となった。一人であれこれ考えてもなかなか解決しないことも、色んな経験や考え方を持った人が集まって課題に取り組めば指標が見えてくる。これは防災に限らず他のテーマでも同様である。事前研修で熊大の鈴木教授が「様々な経験や能力を地域づくりに生かすことが大事」という話をされていたが、この意見交換会により共有できた情報を、今後どこでどのように生かしていくかが今後の私たちの課題である。男女共同参画社会づくり地域リーダーとして、出来ることから始めよう。

交流「意見交換会（分科会）」

第３分科会　テーマ「女性が働きやすい社会」

［日時］11 月 9 日(土)13：20～15：20
［場所］大田区立男女平等推進センター エセナおおた
［記録］林田 好子（3 班）

事前研修での班内の意見

～　地域の現状や課題　～
・出産等で退職する女性が多い（Ｍ字カーブ）
・再就職しようとしても職や雇用形態が限られる
・女性の働きやすい環境づくり
・女性のキャリアアップの現状とのギャップ
・制度はあっても使われていない（特に男性）

～　課題解決に必要なこと　～
・出産等で退職しなくてよい仕組みづくり
・男性の育児休暇の取得
・ワーク・ライフ・バランス
・女性の能力の活用
・子育てしやすい環境づくり

ワークショップでの意見

～　課題　～
【子育て世代の働き方】
・働きたいけど働けないという声を聞く
・働いて収入を得ても保育料で出ていく
・核家族は母親の負担が大きい
・制度や経済的な課題がある
・フルタイム労働をするには夫の協力が不可欠である
・職場にも家庭にも負い目（ごめんなさい…）を感じる→何で…と思う
【女性のキャリアアップ】
・子育て世代にもキャリアアップしたい人はたくさんいる
・独身世代にはキャリアアップできる環境はあるが気負いがある

～　課題解決　～

【子育て世代の働き方】

・上司に自分はどのような働き方をしたいのか伝える

・進捗状況をきちんと伝えることが大事である

・（現状として）制度はあるけど使わない、使えない

【女性のキャリアアップ】

・どの世代もきつい部分はある

まとめ

女性にはライフステージにおいて、男性よりも分岐点が多い。

例として　結婚する　または　しない

出産する　または　しない

結婚や出産等で仕事を続ける　または　続けない　　等

女性の働き方が多様化した。

その中で女性が働きやすい社会になっていくためには……

・自分の生き方は自分で決める。

→「もしもあのとき〇〇だったなら」「もしもあのとき〇〇していれば」など不満を言ったり後悔をしないようにする。

・周りの仲間と助け合う、思いやりの心を持つ。

→お互い“ありがとう”と言える関係性を作る。

交流「意見交換会（分科会）」

第４分科会　テーマ「男性の家庭参画を進めるために必要なこと」

［日時］11 月 9 日(土)13：20～15:20
［場所］大田区立男女平等推進センター エセナおおた
［記録］川島 ひとみ（4 班）

【目的】

男女共同参画社会づくりにおいて、男性の家庭参画がまだまだ不十分であるという現状から、どういうふうに進めていけばいいのかという視点に立ち討論を行った。

【キーワード】

１．介護
　・家庭内での女性への負担が大きい。
　・介護は、重労働で大変である。
２．子育て
　・母親の役割はどこまでなのか。
　・母親は、出産後からすぐ育児に追われる。
３．家事
　・妻の役割はどこまでなのか。
　・女性は、自分の時間がなかなか持てない。

【エセナおおたでの事業】

エセナおおたのスタッフの方から、詳しく事業の紹介をしていただいた。特に、男性を参加対象とした講座として主なものは以下のとおり。

〇介護を担う男性のために
　迫りくる親の介護に備える介護男子の知恵と工夫
　①介護保険制度を知る　②迫りくる親の介護に備える　③調理実習
〇男の生き方塾　退職後の自由な時間を楽しむ！
　①調理実習　②仲間作り　③地域参加
〇男の気楽なおしゃべりサロン
　決まったテーマはなく、自由に話し合うことができる。
〇パパの手で作る赤ちゃんのハッピータイム
　①親子遊び　②パパ育児のメリットとは？　③パパ同士のおしゃべり会
〇夏休み！パパといっしょにワクワク体験
　①いっしょに料理　②いっしょに工作
　応募者多数の場合は、抽選とし、リピーターだけでなく、多くの方々に参加してもらうよう工夫している。

【問題解決として】

１．介護

・女性だけが介護をするのではなく、双方で協力して行う。

・夫婦二人暮らしの場合は、夫が介護する必要性がある。

・介護をする人、介護をされる人、どちらもまわりの協力が必要である。

２．子育て

・若年層に男女共同参画についての、啓発を行う。

・夫婦で子育てを楽しむ！二人で同時に親になる！

３．家事

・年代により、難しい部分はあるが、できる人がやるようにする。

・協力し合う、ほめる、感謝の気持ちが大事。

【まとめ】

・地域に生活している人の特性を把握し、それぞれの集える場を作る講座などを企画し、少しでも男女共同参画の意識づけをする。

・家庭、職場、地域で、一人一人の個性や能力を生かし、お互いに分担しながら、尊重し合えるようにすることが、男女共同参画社会を進める上では大切である。

講話３「メディアを読み解くチカラをつけよう

～メディアとジェンダー広告の炎上を事例に考える～」

講師：大妻女子大学文学部 教授　田中 東子 氏

［日時］11 月９日(土)15：30～17：00
［場所］大田区男女平等推進センター エセナおおた
［記録］野山 ひろみ（１班）

■講師紹介

・政治学博士
・大妻女子大学文学部教授
・東京大学大学院情報学府客員教授
【専門分野】
メディア文化論、ジェンダー研究、
カルチュラル・スタディーズ

■問題の所在

・ジェンダーギャップ指数（２０１７）、日本は過去最低の世界１１４位
（１位アイスランド　２位ノルウェー　３位フィンランド）

・相次ぐ広告の「炎上」
ここ数年、女性や男性のステレオタイプ化された性役割を強調するようなもの、女性を商品化するようなもの、ＡＶの手法を盛り込んだ動画やポスターの公開が相次ぐ。
→炎上しては直ぐ取り下げられるが、また新しいものが登場するということが繰り返されている。
→民間企業だけでなく、自治体や大学など公共性の高い組織などが制作したものでも例外ではない
→竹信美恵子氏による「メディアセクハラ」という呼称の提案。

■炎上広告動画の何が問題なのか

過去に炎上した民間企業ＣＭを見て考察する。
・作り手側の意図は働く女性、妻、母の姿を美しく、前向きなイメージとして描いていたが、受け手側は、それを不快に感じてしまった事例。
→作り手側の「思い」や「意図」は伝わらないことも大いにありうる、という前提でメッセージを発していく必要がある。

自治体が作成したＰＲ動画を見て考察する。
・ＡＶ的表現が公共的な広告として不適切であった事例
→無意識や無知による性差別については、勉強するしかない。
→同じ言葉を使っても、文字の大きさや配置など、どこを強調するかで全く印象が異なり、炎上を招くことがある。

→批判のある広告は自治体や企業、商品のイメージを損ねブランドを傷つけてしまう。

同様のテーマで作成された海外の広告と比べて考察する。

・おむつの広告

→日本で作成したもの・・・一生懸命一人で育児する母親の姿が描かれており、育児は辛いものという印象を与える。

→海外で作成したもの・・・ママや周りの人たちが赤ちゃんのために一番の事をしてあげたいという気持ちで子育てをしている様子が描かれている。

・お母さんがテーマの広告

→日本で作成したもの・・・忙しい毎日を送りながらも、食事は当然に母親が作るものであるかのように描かれている。

→海外で作成したもの・・・子供があらゆる困難と闘いながら成長する様子とそれを支える母親の絆が描かれている。

■メディア環境の変化

・以前は広告物が特定の地域や家庭内でのみ見られていたが、ＳＮＳの発達により、すぐに、全世界に発信されるようになり、作り手の予想外の所にも届けられるようになった。

→作り手はこの点に留意する必要がある。

一方、「炎上」という形で社会問題が顕在化するプラスの側面もある。

■改善するためには

・何が問題の焦点であるのか気づく

→女性（性）の商品化、性役割の再生産など

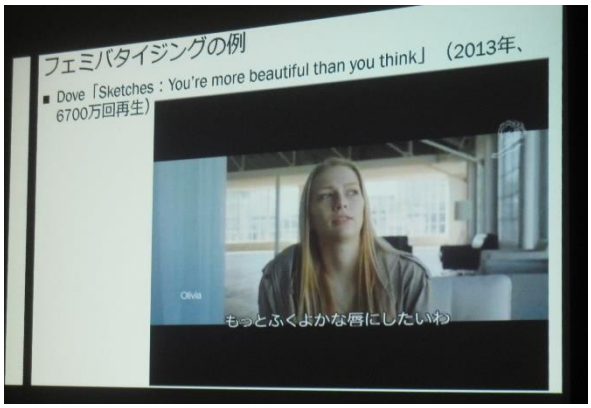
・海外での取り組みから学ぶ

→イギリスでは２０１９年に性別に関するステレオタイプな広告が全面禁止！

・メディア環境の変化を利用する

→感じたことをＳＮＳを通じて広い範囲で共感を共有できるようになったことで、作り手側と受け手側の価値や認識とのずれが明示化されるように。

→ＣＭなどで表現される女性イメージへの違和感を表現していく。



講話４「イクメンとイクボスが社会を変える」

講師：NPO 法人ファザーリングジャパン理事 東　浩司氏

［日時］11 月 10 日(日)9：00～10：30
［場所］ TKP Luz 大森カンファレンスセンター
［記録］松本 卓也（2 班）

【講師紹介】

神奈川県逗子市在住、本業「パパ」
会社員時代は 24 時間 365 日働き詰めだったが、長女の誕生をきっかけに自身の働き方を見直す。現在は研修講師として独立、企業等で研修、講演を行っている。

■イクメンとは

・育児を主体的に行う男性
　（2010 年流行語大賞トップテン）
・男の育児は「国家事業」
・イクメンの反対語は、イクジナシ（育児なし）

■過去の経験

・10 年前、父子で電車に乗っていると「ママがいなくてかわいそう」と言われた
・男子トイレにおむつ台がないなど、父親が育児できる環境もなかった
・父親が子育て講座に参加すると変質者に疑われた

⇩

このような経験を経て、父親向けの育児講座がなかったことから、2009 年に仕事帰りに育児を学ぶことができる、日本初の父親学校「ファザーリング・スクール」開講し、メディアに取りあげられた。
ファザーリングジャパンは、「イクメンを広める団体」ではなく「イクメンを死語にする団体」である。

■父親が子育てをするメリット

子ども　健やかな発育、趣味や価値観が広がる、自己肯定感が高まる
妻　　時間と精神的な余裕で育児ストレス軽減、子育てに前向きになれる
父親　　人生が豊かになる、幸せな気持ちになれる

■育児で高まる仕事力

タイムマネジメント力	段取り力	リスク管理能力
ストレス耐性	人材育成力	感情が豊かに

■**イクボスとは**

職場で共に働く部下･スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果も出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のこと

■**イクボスプロジェクト**

イクボスが職場と社会を変える
育てるボスが理想の上司
しかし現状では､育児休業取得率(厚生労働省平成 30 年度雇用均等基本調査)女性 82.2%に対し、男性 6.16%

[男性が育児休暇を取れない（取らない）理由]
1 位　仕事の代替要員がいない
2 位　経済的不安
3 位　上司に理解がない

男性育児休暇促進のポイントは育児休暇が当然の空気を作る
「育休とるの？」から「育休いつとるの？」へ
育休も大事であるが、毎日定時で帰れる、休みたいときに休める働き方が本来は望ましい。

【まとめ】

男女共同参画､女性活躍推進が進む中､男性の｢意識改革｣が求められている。
主に女性が担ってきた家事、育児（＋介護）に、男性が「家庭進出」し共に担うことで女性の活躍がさらに進み、男性の家庭進出について職場の理解を広め、男性女性ともに支えあいながら活躍できる社会になってほしいと感じた。

「父親が変われば､家庭が変わる､地域が変わる､企業が変わる､社会が変わる」

講話 5「1 枚のチラシ作りから
デザインの基礎を学ぼう」

講師：アートディレクター　柴崎 久美子 氏

［日時］11 月 10 日(日)10：40～12：10
［場所］TKP Luz 大森カンファレンスセンター
［記録］谷川 淳子（4 班）

◆ テーマ　「今から“伝わる”デザイン力 UP！」
◆ 講師　　柴崎久美子（アートディレクター）

⮝ 持ち寄られたチラシに対して先生による講評・解説（ポイント）
- ✓ チラシのタイトルの囲みはシンプルにする。
- ✓ 曖昧な形（楕円形）よりも四角形がよい。
- ✓ タイトルのインパクトがしっかりしている事（日付等が読みやすく、きれいに整理し伝えたいものをはっきりと書く）。
- ✓ 案内説明文章が、書類的にならないようにする。
- ✓ 飾り形の使い方をうまくすると見る人の目線の流れをうまく使うことが出来る。
- ✓ 手に取った人がパッと見て（0.3 秒）、興味を持ってもらえるようなデザインやインパクトのあるコメント表示が大切。

⮝ チラシのデメリット
- ✓ 「見ない」
- ✓ 「信じない」
- ✓ 「行動しない」

⮝ チラシのメリット
- ✓ いつも見られる、偶然目にする。
- ✓ 自分事感が伝えられる。
- ✓ 統一した印象を持ってもらえる（いつもこのチラシかわいい→持って帰る欲を持たせる）。

⮝ チラシの力を発揮する場面
- ✓ 置いてもらえる場所がある。
- ✓ 口コミ、手渡し等シェアをして欲しいときは画像を、ラインや Web と連携させると効果が UP。
- ✓ 決まったエリア、人に PR したい時、配布先が決まっている時。
- ✓ そのチームらしい印象を受け取って欲しい時。

※集客で大事になるのが「これは自分に関係する」と相手に思ってもらうこと。

- デザインとは・・・
  ※デザインとアートは違う

  デザイン

  - ✓ 狙って（狙いを込めて）作るもの。
  - ✓ 相手にこう感じて欲しいと作り手が前もって設定する。
  - ✓ 人の感性に訴え、最初に目にした 0.3 秒を掴む。
  - ✓ 感性を掴み、直感的、スピーディで言葉と補完関係があること。
    ・感性の法則・・比較する対象があると伝えたいものがはっきりとする。

  デザインをする＝目的に合わせて整理･再構築して新たな機能を持たせること。

- デザインの基本
  - ✓ いい例をたくさん知っておくこと（いい事例の量が豊富にある）。
  - ✓ 情報を整理する。（最も重要！）
  - ✓ 推敲（こだわって何回もやり直す、近くから、遠くから見てみる）。

- デザインのコツ
  - ✓ バランスと違和感のない流れが重要（文字の大小、濃淡、疎と蜜、主と客、寒･暖の色使い、文字行間、目線の流れ（興味のあるものを下に置く等））。

- デザインの手順
  - ✓ 他の誰かに伝える前に自分を知る。
  - ✓ 伝えたいことを明確にする。
  - ✓ サムネイル（簡単で小さな下書き）を描いてざっくりつかむ。
  - ✓ 必要最低限度の素材を用意（文字数を決める。長ければ良い訳ではない）。
  - ✓ 盛り付ける。【レイアウト】（配置材料の仲間分け。最初はモノクロで作ってみる。余白とメリハリ重要。）
  - ✓ フォントの選択、色の選択（メイン 1 色・サブ 2 色）

- まとめ

  最後に全員でサンプルチラシの制作に取り組み、各自で学んだことを活かせたようであった。1 枚のチラシに載せられている情報の明確化や、誰に何を伝えるのか、デザイン力の重要性など様々なチラシデザインに関して学びを深めた。先生のテキストの末尾にあった、「デザインは、機能であると同時に表現でもあります。たった 1 枚の紙が誰かの夢や希望となる。」今回の柴崎先生の講話で学んだことと併せて、今後の参考にしていきたい。

解団式

［日時］11 月 10 日(日)12：10～12：20
［場所］TKP Luz 大森カンファレンスセンター
［記録］木村 可奈子（3 班）

■主催者挨拶（熊本県男女共同参画・協働推進課　黒瀬氏）

三日間の研修、大変お疲れさまでした。皆さんのご協力のもと、天候にも恵まれ、無事に終わることができた。あらゆる分野で活躍する方々の話を聞いたり、男女共同参画の施設を訪問したりして、多くのことを学ばれたかと思うが、どのテーマも今後の活動に必ず生かしていける内容だったかと思う。

この研修はここで終わりではなく、ここからが始まり。まずは自分で取り組めるものから、自ら実践していただきたい。さらに職場の方や、身近な方や伝えていただいて、いろいろな場に還元していただくことが皆さんの役割かと思う。そういった地道な活動が、地域における男女共同参画につながっていくと考えている。

黒崎団長には様々な配慮をいただき、研修をスムーズに終えることができた。本当にありがとうございました。

研修には、様々な経歴を持つ方が参加され、多くの刺激があったかと思うが、この刺激も今回の研修で得られた成果だと思っている。今後の皆さんのご活躍を祈念します。

■団長挨拶（黒崎 麻子氏）

二泊三日という皆さんとともに過ごした時間の中で、自分の未熟さも感じた研修であった。でも、今回の研修は一つのきっかけであって、ゴールではない。今から皆さんとよりつながっていき、地域を代表する皆さんとともに自分たちの地域を豊かにしながら、それがトータルで熊本を底上げできるように頑張っていきたい。

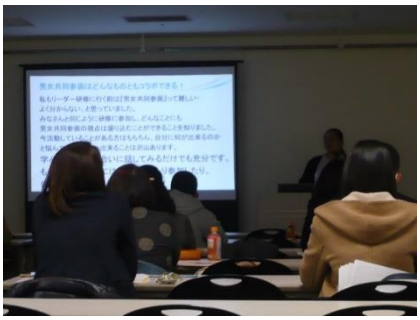
今回同行していただいた、黒瀬さん、宮地さん、井上さん、本当にありがとうございました。３人の方が誇れる研修生だと言えるように、これからも皆さんで頑張りましょう。

事後研修

［日時］1 月 20 日（月）10:00～15:30
［場所］くまもと県民交流館パレア
［記録］宮地 景子（熊本県）

[事後研修のメニュー]

１　開会（男女参画・協働推進課長挨拶）
２　地域リーダー研修修了者による活動事例の紹介
　　今村美希氏（H27 修了生）「やりたいことを形にしよう！」
　　橋永高徳氏（H7 修了生・熊本県つばさの会会長）「つばさの会について」
３　報告書の名称決定
４　熊本県男女共同参画推進員制度について（男女参画・協働推進課）
５　自主研修報告会
６　意見交換会



[講話]

地域リーダー修了生である今村美希氏、橋永高徳氏をお招きし、研修修了後の活動内容、活動を行ううえで工夫していること、今後に向けてのアドバイスなどについてお話いただいた。

[報告書タイトル]

各班から一つずつ提案、プレゼンテーションを行った後、多数決により『令 ONE TEAM ～誰もが輝く令和時代～』に決定した。

[自主研修報告会]

県外研修後、各研修生が各地域や職場、家庭等で行った自主研修・研修報告会について、１人３分程度で発表を行った。各研修生は、自主研修を通して県外研修で学んだことが定着するとともに、新たな課題の発見や今後の展望なども見えてきた様子であった。

[意見交換会（今後の活動について）]

事前に各自考えたワークショップの企画案を基に意見交換を行い、各班一つの企画案をまとめた。その後、企画案の内容や目的、対象、周知方法等につい班ごとに発表を行った。

全体で多数決をとった結果、『人生を豊かにする前向きな声掛けを学ぶ』というテーマで来年度ワークショップを実施することに決定した。

県外研修の一コマ

県外研修出発の４日前、集合場所となっている羽田空港内で断水が発生した。飛行機の離発着などに影響はないものの、日本一利用数の多い空港の断水とあって、原因や復旧見込み、また断水によって休業を余儀なくされた飲食店についてテレビ等で大きく報道された。

復旧の予定が１日１日と伸び、ついに研修出発日になっても復旧しないまま、私たちは羽田空港に降り立った。

昼食場所を探しながら空港の第２ターミナル内を歩いてみたが、飲食店は全て閉まっていた。トイレは雨水を利用して使用できたが、手洗いには空港が用意した 500ｍｌのペットボトルが多数置かれ、それを利用するよう案内があった。しかし、鏡の前などの高い位置にのみ置かれていたり、キャップが固く一人で開けることが難しい人もいた。

2020 年は東京オリンピックを迎え益々多くの人が利用する羽田空港で起きた突然の断水。今回は災害によるものではなかったものの、いつ何時災害が起こるか分からない現在、改めて多様な意見を取り入れた防災の必要性について考えさせられた県外研修のスタートであった。

（管澤 徳子　１ 班/合志市）

県外研修で一番印象に残っているのは、県外研修の初日に受けた研修である。はじめに萩原なつこ先生の講義を受け、ギフトワークという言葉が印象に残った。ボランティアという言葉よりギフトワークという言葉を使うことで、活動自体は同じものであるが、参加意識が変わると感じた。

その後、自由参加であった上野千鶴子先生の講演も印象に残っている。当日は夕食を取らずに講義となるハードスケジュールであったが、上野先生の講演はとても面白かった。上野先生の講演は文字では無く、生で聞かないと面白さが分からないと聞いていた通りの内容であった。また会場には多くの学生が参加しており、意識の高さを感じることができた。

今回の研修では、男女共同参画という言葉に対してのイメージが変わった。多角的に考えることで、自分たちの生活に繋がることが多く、関係ないと思っていることも男女共同参画に繋がっていることが分かった。

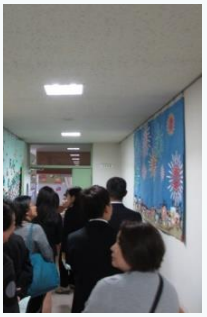
（諸冨 友木　２班/荒尾市）

個人レポート

大田区工男女平等推進センター
大田区工男女平等推進センター
エセナおおた

歓迎
熊本県
国内派遣
研修団
の皆様
エセナおおたへ
ようこそ!

被災地から学び今できること



１班

研修に参加して

石田 啓子（熊本市）

「視野を広げる良い機会だから、挑戦してみたら？」

この言葉に背中を押されて研修参加を決めた。４０年間教諭として中学校に勤務し、退職したその年の４月に、県主催の「さわやか大学校」に入学。この大学の入学資格は、熊本市内の６０歳以上の方で、「生きがいづくり・地域のリーダー育成」が目的である。冒頭の言葉は、この大学で同じ班になったある方からいただいたものだ。その方はこの研修の修了生の会である「つばさの会」の元会長として、また町議会の女性議員として活躍された方だ。その方のこれらの活動の原点が以前参加したこの研修だったそうだ。よくわからないままに、新しい知識を得られるならと、応募した。この方と知り合えたことが幸運だったと思う。

当時の私はというと、仕事の面でも私的な面でも「女性だから」ということで差別されたり、悩まされたりした経験がなく、性差を特別意識したこともなかったので、研修で学ぶあらゆる事柄はとても新鮮で、これまでの自分の視野の狭さを痛感させられるものだった。

事前研修の鈴木先生の講話の中で、金子みすゞの「みんなちがって、みんないい」＝男女共同参画の基本的な考え方だという言葉が印象に残った。人と違うのは当たり前で、その違いを個性として男女がお互いに尊重しつつ、責任も分かち合い、能力が十分に発揮できる社会が男女共同参画社会である。では現実はどうか。男性優位のこれまでの社会で積み重ねられてきた偏見や先入観や価値観をどう克服していくか、厳しい状況の中で女性自身の考え方も変化してきている。講師の先生方の男女共同参画への熱い気持ちが伝わってきて感動したと同時に私たちも変わらなければならないと感じた。また、メディアを含め、社会のあらゆる事象を男女共同参画の視点で見られるようになったことは私自身の良い変化であると思う。

私たちの班のテーマは「男女共同参画の視点で考える防災」。施設で意見交換会があったが、係の方が言われていた印象的な言葉は「平時（日常）にできていないことは緊急時にもできない」つまり、平時から男女共同参画社会の実現に向けての活動が必要だということだ。施設の方々の包み込むような温かさと笑顔には、やりがいのある仕事をしているという充実感のようなものも感じた。施設の随所には創意工夫があってすばらしいと思った。

そして、研修に参加していた方々が実際に地域リーダーとして活動しておられることを知り、その行動力に驚いた。３日間行動を共にして色々学ばせていただいた。また県職員の皆様にも大変お世話になって感謝している。今後はこの研修で学んだことを活かせる活動をしたいと思う。

男女共同参画リーダー研修に参加して

池辺 豊美（合志市）

男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業に熊本県内 20 名で参加した。

国立女性教育会館では、男女共同参画社会を実現する為の研修が行われている。男女共同参画が不可欠な理由として高齢化、過疎化の進行、人間関係の希薄化や単身世帯の増加等の様々な変化が生じている。良好な地域社会の構築のためには、男女が共に担わないと立ち行かなくなる状況になっている。こうした中でひとり一人が加わり新しい公共を創造し地域力を高め持続可能な社会を築くことが最も重要であると言われている。

ファザーリングジャパン理事の東さんの講話の中で、父親が子育てするメリットとして、
子供にとっては、
１．健やかな発育にいい影響がある。
２．子供の興味や価値観が広がる。
３．子どもの自己肯定感が高まる。
妻にとっては、
１．時間と精神的な余裕で育児ストレス軽減。
２．子育てに前向きな気持ちになれる。
父親本人にとっては、
１．人生が豊かになる。
２．子育てはアナザーワールドといわれている。
と聞いた。これらのことから“イクメン”のプラス思考がうかがえる。全てにおいて男性の仕事、女性の仕事の固定概念が強く区別されている事が多いのではないだろうか。個々の特性を生かし男女関係なく協力する事のメリットをもう一度それぞれ考えるべきである。

私は男女お互いのリスク、メリットを共有し協力しながらまず地域を住みよい町にする為にどうすればよいか考えてみたい。自治会がひとつになるためには、その中にある班をひとつにする。その小さな班のかたまりがワンチームを作り上げると信じている。お互いが協力し切磋琢磨することが重要である。今回県内で活躍されている方々と巡り会う機会を得ることができた。今後それぞれの地域の特性をアピールし情報交換できればと思う。色々な面で協定を結ぶ事ができたら、防災あるいは地域の活性化に役立つのではないだろうか。お互いに身近な存在でありながらわからない事も多い中、私達の小さなつながりが大きな力になると思う。お互いの情報交換によってコストのかかるチラシも最小限ですむ。口コミ情報の力は大きい。私達はお互いの人権を大切にし、人間として生きるための社会的基礎力、男女共に経済的、生活者として自立をめざすことを学んだ。固定概念にとらわれず地域社会活動に参画していく事が重要である。

研修を通して出会うことのできた皆さんに感謝する。

研修に参加して

管澤 徳子（合志市）

今年の４月から男女共同参画の担当となり、「男女共同参画」に向き合うこととなったが、学んでいく度に自分の中で戸惑いが広がっていた。なぜなら、男女共同参画は様々な分野や問題と結びついており、対象が幅広く、内容によっては一体これがどう男女共同参画に結びつくのか理解できないこともあったからだ。市の担当者がわからなくて、市民に広められるわけがない！先輩に勧められた地域リーダー研修に参加すれば、何か自分の中で道が開かれるのではないか。そのような思いで参加した。

事前研修の鈴木教授の講話で「男女共同参画の考え方は、一人一人が違うことを認識し、何がどう問題なのか、おかしいと思うことに気づく、変えていく視点を持つことである」と聞き、その視点を持ってこれからの研修に参加し、正しく理解したいと熱意が高まった。

県外研修では、男女共同参画の拠点として様々な取り組みをされている施設見学、第一線で活躍されている素晴らしい講師の方々の講話を聴くことが出来た。

特に印象に残った点は、立教大学の萩原なつ子教授の講話にあった「先入観、固定観念からくる性別役割分担意識に基づく偏見の解消とは、お互いの人権を大切にすること。それは人間として生きるための社会的基礎力」と話された点。相手を思いやり、自分を大切にする。互いを認め尊重することは誰もが重要だと学んでいるはずだ。だが、私たちが生活する中で作り上げてきた無意識のバイアスはとても厄介なもので、すぐに変えることはなかなか難しい。社会的基礎力として皆が捉えること。男女共同参画の視点の基礎を教わった気がした。

もう一点は、ファザーリングジャパンの東浩司氏の講話にあった「人や社会は簡単に変われない。「気づき」があったら「行動」

し「習慣化」する。いいな！と思ったらとりあえずやってみる。うまくいったら習慣化して文化（空気）を変える」の言葉。研修で多くの学びがあったが、行動に結びつけるにはどこから手をつければいいかと考えあぐねていたが、まずは小さな私の「気づき」と「行動」から何かが変わるかもしれない。とても前向きになれる言葉だった。

男女共同参画は様々な分野や問題と結びついているからこそ、日々の生活の中で、多様な視点を持って考えることが重要である。研修に参加し、迷子になっていた自分の考えにやっと進むべき方向性が定まったことを嬉しく思うと同時に、３日間の研修で同じ学びと課題を共有できた研修生の皆さんとの素晴らしい出会いに感謝したい。

リーダー研修に参加して

野山 ひろみ（大津町）

「男女共同参画リーダー研修に参加しませんか？」と声をかけていただいたが、男女共同参画とは？というところからのスタートだった。事前研修で、男と女の違いや、ジェンダー、法律、ダイバーシティなど、はじめて聞いた言葉や、新鮮な気づきが沢山あった。まだまだ男女差があり理不尽な事があったり、固定観念で決めつけがあったりなど沢山の困りごとがあることなども分かり、県外研修が楽しみになった。

県外研修１日目の埼玉「国立女性教育会館」では様々な研修や活動をされていた。敷地も広く自然豊かな所だった。

萩原なつ子先生の講話も、『家庭ワーク・有給ワーク・学習ワーク・ギフトワーク』という４つのワークの話が印象的だった。その中でも、ギフトワークという言葉はいろいろな思いや物を相手の喜ぶ顔を想像しながら行動している姿が表現されていると感じ、素敵だなと思った。

２日目の「エセナおおた」での意見交換会はとても良く、防災士の資格を取得してから自分自身何から取り組めば良いのか悩んでいたが、女性目線で解決出来ることが沢山あることが分かり、少しずつだが身近なところから活動していこうと思った。

藤本有希さんの「いなか学校」の講話も身近な水俣での活動で、子どもたちが都会での暮らしの中ではなかなか経験出来ないことを体験できる事は素晴らしいと感じ、田中東子先生の「メディアを読み解く」講話も表現は大切で、発信する側と受け取る側では違う言葉に感じたりすることも気を付ける事など、SNS の影響力も改めて強大だと感じた。

3 日目、東浩司さん「イクメンとイクボス」の講話では、父親が子育てするメリットをもっと体験できる方が増えてくれたら良いなと感じた。

柴崎久美子さんの「チラシのデザイン」の講話で興味をもってもらうチラシ作りを体験出来て早速制作してみようと思った。

大津町の「男女共同参画審議会」にて報告をさせていただいた。緊張したが、皆さん関心をもって聞いていただいたのでホッとした。このような機会とチャンスをいただいた事に感謝している。ありがとうございました。

新しい気付きに感謝

松本 美由紀（大津町）

４月から「男女共同参画」の担当となり、最初は「男女平等」との違いすら分からない状況だった。これまであまり意識していなかったので、まずは現状を知り、知識を深めることからだと思い、研修に参加した。

県外研修では、さまざまな講話や視察などが設けてあり、どれも素晴らしいものだった。何よりも講師の先生方や視察先でご説明をいただいた方々が、生き生きとやりがいを持って仕事に取り組んでおられるのを感じた。

施設見学では、情報、啓発講座、相談窓口

が充実しており、展示スペースなども利用者目線での工夫が随所にされていて、参考になることばかりだった。

一番印象に残っているのは、エセナおおたでの意見交換会だ。防災をテーマに行ったが、一般研修生と行政職員それぞれの立場から意見があり、それを聴くことで新たな気づきがあった。同時に、自分自身に住民目線が足りてなかったと反省もした。避難所運営や被災地支援において、女性の視点を欠いていたために、多くの女性がさまざまな困難や不安を抱えていることがわかった。それと同時に、私の地域でも自主防災組織の構成員は男性が中心で、女性への配慮が足りない部分があるのではないかと考えた。状況を変えるためには、女性の意見が出しやすい場所を作ることが重要だと感じた。これから出来ることとして、すでにある団体等をネットワークで繋ぎながら、防災等に対して女性の視点を入れていけるような取り組みに繋げていきたいと感じた。

今回の研修に参加して、男女共同参画社会とは、女性だけでなく男性にとっても生きやすい社会づくりであることを改めて考えさせられた。そして、男女共同参画の基本姿勢が多くの場面で必要だと感じた。

共に学んだ班のメンバーは、年代、住んでいる地域、家庭、仕事などの環境が異なり、それぞれの立場、経験、知識から多くの意見を聴くことができた。たくさんの新しい気づきと学びを与えてくれた講師の皆様や同じ班の仲間に深く感謝をしている。

最後に、一緒に学んでご縁がつながった研修生のみなさん、この研修を企画してくださった県職員のみなさんに感謝する。今回の経験やご縁を活かしながら、地域に少しでもお返しできるよう業務に励んでいきたい。

2班

地域のナビゲーターに

中竹 美由紀（荒尾市）

私の前職は自衛官（看護官）であったが、定年退官後の現在、夢が叶って趣味を仕事にし、荒尾市で「BLUE MOON」というダイビングショップを営んでいる。ダイバーを育てたり、ツアーや水中のナビゲートなどが仕事である。水中は道も標識もない。悪い時には視界が数十ｃｍの事もある。経験、知識、技術、コンパス（方位磁石）を駆使することによりお客様に水中を楽しんで頂いているが、誰一人迷子にならぬよう安全管理には細心の注意を払う。水中での迷子は最悪の事態になりかねない。

平成 30 年 4 月から荒尾市の男女共同参画審議会の委員となった。推進室から声がかかり、私でも地域の為になるのならと引き受けたのだが、男女共同参画の意味も良くわからず、コンパスをどこに合わせていいものか一人で遭難しそうになっていた。今回、推進室からこの研修を紹介して頂き、せめて基礎が理解できればと思い参加を決心した。

まずは事前研修により男女共同参画社会の基本的な考え方について学んだ。「男も女もなく、みんな一人一人が違う。」という視点で、様々な経験や能力を地域づくりに生かすことが大事ということがわかり、あまりにも大きすぎる事業が少し身近なものに感じられるようになった。

県外研修では、色んな工夫があちこちに施された 2 ヶ所の施設見学をはじめ、こんな方からお話が聞けるなんてと恐縮しながら受けた素晴らしい講話の数々、エセナおおた職員の方々との濃い意見交換会など盛り沢山の内容で、自分がついていけていたのか少しあやしい気がするが、何とかコン

パスを合わせる方向が見えてきた。男女共同参画推進の地域リーダーとして、どのように地域をけん引していけばよいか？などと気負う必要はない。自分が出来ること、身近なところから始めればよいと感じ一安心した。自分らしさを失わずにリーダーとして成長して行きたいと思う。

水俣で「いなか学校」に取り組まれている藤本先生より「自然、地域、人との関わりなどの中で地域への愛着を持つこと。愛着を育てること。人づくりには今後も教育が重要である。」と講話があった。果たして私は地域にどれほどの愛着があるだろうか。もっと地域のことを知る努力が必要だと感じた。まずは色んな方々との交流を図り繋がって行きたい。沢山の声を聴きこう。そして一人一人に出来ることを共に考えて行こう。

私が水中でコンパスを使えるようになったのは、まずは近い場所からであった。その範囲で色々と楽しめるようになると、少し遠い場所に行きたくなりコンパスを合わせる。更に楽しみが増える。そしてより遠くの場所を目指すようになり自信がついて、人を連れたナビゲートが出来るようになる。

これからは水中だけではなく地域のナビゲーターとして自己研鑽していきたい。楽しみながら、そして地域の迷子がでないよう目を向けながら。

最後に２班の皆様へ。「めざせ地域のイカ太郎！！」

自分らしく幸せに
一人一人が輝く未来へ

黒崎 麻子（荒尾市）

色々な形で物事が変化し、社会もそれに伴い変化している。今を生きる私達にとって、一人一人の多様な在り方は、その人の置かれた場所によるものや、その人らしさであって、その善し悪しを判断するものではない。

子育ても、介護も、家族の１つの形。大変さはあるけれど、その人が存在する幸せがある。ただ、子育てや介護にあたる人が孤独になり、大変なときに声にできない環境が、色々な問題を引き起こしている。

私自身も子育てと介護とが重なるダブルケアの当事者であることから、２０１８年５月より子育てや介護、ダブルケアの人が幸せに自分らしく在れるようにと、Twitter という SNS を使用し啓蒙活動をしている。また、ダブルケアカフェという気軽に愚痴を言ったり、相談、情報交換をできる居場所作りの活動を、荒尾市と大牟田市（福岡県）の２ヶ所にて実施している。自分のことを理解してくれる人の存在が癒やしや励みとなり、子育てや介護、ダブルケアを楽しむ精神的なゆとりが持てるように支援することが狙いである。また、人と人が繋がり合えるからこそ、新たな知識、やり方の工夫が生まれ、困りごとを解決する。それらがこれから同じような状況になる方への明るい希望の光となる。

この度、ご縁をいただき男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業の研修生として学ぶ機会を得た。それにより、より広い視点で多角的に物事を捉える大切さを学んだ。一人一人の在り方を尊重できるように、違いを受け入れる柔軟な心と考えを持つことの大切さ、その実践はとても難しく感じるが、目の前にいる一人一人との関わりを丁寧に行うことで、その想いや姿勢が伝播していくことを願う。

男女参画の概念を持つことで、緩やかに幸せな地域、熊本を創っていくことが可能だと確信し、今回の研修の講義全てが楽しく、とても夢中になれるものであった。その中で、一番印象に残ったのは、萩原なつ子先生に教えていただいたパラレルキャリアにおけるチャールズ・ハンディの４つのワーク（①家庭ワーク②有給ワーク③ギフトワーク④学習ワーク）の概念である。
私の場合、①子育てと介護のダブルケアの家庭ワーク、②クリニックのパートという有給ワーク、③ダブルケアカフェや SNS にて支援するギフトワーク、④今回がきっかけで始まった男女共同参画の学習のワーク、という形になる。自分の中で、キャリアが子育てや介護等のライフステージにより中断してしまうイメージがあったが、今の在り方がパラレルキャリアという新しい在り

方なのだと知り、自分を肯定することができた。
これから私自身の在り方を大切にし自分らしく輝きたい。また、家族や地域、SNS 等の繋がりのある方々を大切にしていきたい。団長としてよりよきロールモデルとなれるよう頑張りたい。

意識の変化

諸冨 友木（荒尾市）

男女共同参画の研修と聞くと、男性の家事や育児についての研修というイメージを持っていたが、事前研修の中で、男女共同参画は国の重要政策であり、日本が世界の社会情勢の変化に対応するための人材活用戦略であることを学んだ。背景には、世界の競争環境の激化、成熟社会のなかでの価値観の多様化、少子高齢化といった事象があり、男女共同参画とは基本的人権としての男女平等の実現を目的とした一面の他、社会経済情勢へ変化に対応することを目的とする一面を持っている。

個人で考えると、国の重要政策であると聞いても実感がわきづらいが、漠然と男女共同参画等イメージを持つより、私たちひとりひとりの行動や意識が、社会経済への対応に繋がっているという、最終目的を意思統一することは意義ある事であり、広めていかなければならない事だと思った。

県外研修で印象に残ったのは、４つのワークという言葉だった。４つのワークとは①ジョブワーク（有給の仕事）②家庭ワーク（家事、育児、介護）③ラーニングワーク（自分のための学習、学びなおし）④ギフトワーク（ボランティア活動、NPO、社会活動）である。結婚や出産などによって、ワークバランスは偏ることもあるが、これからの時代は４つのワークをバランスよくしていくことが大事である事を学んだ。

特にギフトワークについては、ボランティアという言葉ではなく、１つのワークと意識することで、言葉の響きもよく、参加しやすくなるのではないかと感じた。今の私に足りないのは、子どもが幼いこともあり③ラーニングワークと④ギフトワークである。

４つのワークのバランスを保つことは、個人の意思だけでは達成できず、会社や上司、社会が同じ方向を向いてる必要がある。職場や地域に４つのワークという言葉を広め、実践していけるような活動をしていければと思う。また、これからの地方自治には特にギフトワークは欠かせない物であるので、自分の今後の仕事にもつなげていきたい。

研修に参加して学んだこと

吉田 公美（玉名市）

私は今回の研修は人に勧められて参加したのだが、それまで「男女共同参画」についてよく考えたり、改善しようとアクションを起こしたりした事があまりなかった。ただ、１年過ごしたニュージーランドと日本の差、出身地の名古屋と 8 年前から住んでいる玉名との差は明らかに感じていた。今回の研修の申し込み書を作成するために情報収集したり、事前学習で講話を聞いたりすると次から次へ「これっておかしくない？」「あれは無意識の性差別だったんだ。」と当てはまることが続々と出てきた。自分の家庭・仕事・子供の学校で、もちろん自身の今までの行動や考え方にも無意識の性差別に関する問題がたくさんあることに気づき、驚いた。同時に世界と比べ日本のジェンダーギャップの大きさに驚嘆しつつも「やっぱりか・・」と、「何とかせなん！」という気持ちになった。そんな、“どげんかせんといかん意欲”満々で参加した研修では素晴らしい話ばかりだった。今回の研修で学びたいテーマとして“長い間男性中心・優位の社会であった日本にまだ根強く残る、その価値観を持った人達にどのようにアプローチ

すればいいのか。男性優位の中で培われてきた素晴らしい日本の文化とはどのように折り合いをつけていけばいいのか。”を掲げていたが、エセナおおたでの意見交換をはじめ、研修中に聞いた話や同じ研修生との雑談の中で大きなヒントを頂き、今後の自分の活動の示唆を得ることができた。私は病院で看護師をしているが、職場は圧倒的に女性が多く、職員の配偶者も巻き込んだ意識改革の必要性を痛感した。男女を問わず、職員・入院患者様とそのご家族などに男女共同参画についての“気づき”を広める活動から始めていきたいと考えている。そして継続するためのシステム作りを実践しようと思う。

研修では様々なバックボーンの人たちと交流ができ、意見の違いから緊迫する一面もあったが、それも含めて多様な価値観の人たちとの交流において相手側の主張もきちんと受けとめることの大切さを実感し、今後の活動に大いに役立つ学びとなった。県の担当の方の熱い思いも聞くことができ貴重な経験、勉強になった。

最後に、このように有意義な研修を受ける機会を与えて下さった熊本県および玉名市の担当の方々、職場のスタッフ、研修生（特に２班）の皆様へ感謝します。ありがとうございました。

県外研修を終えて

松本　卓也（和水町）

研修前は男女共同参画、ワークライフバランスなど単語として聞いたことがある程度で、言葉の意味については考えたことがなかった。

研修直前、男性国家公務員が育休を取得する際、１か月以上取得するよう促すとニュースがあったが、どのようにしたら男性の育休取得が広まるのか興味が湧き勉強したくなった。

男女共同参画や女性活躍推進という考え方に至るまでの歴史や時代の流れ。

高度経済成長時代の日本は、男性は２４時間３６５日働くこと、女性はそれを支えることを良しとし、男女の役割が明確だった。しかし同じ時代、欧米では女性も社会で活躍しており、人材活用の観点でも女性が活躍している欧米が発展していることが分かった。

このことで日本でも女性の社会進出の流れができていくが、女性側の施策ばかり推進しても、女性の社会進出はなかなか定着しない。男性の家事進出が重要であり、男女がお互いに配慮し助け合うことで男女共同参画やワークライフバランスが浸透していくことが理解できた。

また、家庭や職場だけでなく、地域や災害発生時の避難所運営においても女性の活躍が求められている。これまで男性が担っていた役割を女性が行うことで事がよりスムーズに進むことがある。

しかしながら、中小企業や田舎の地域まではまだまだ浸透していない。中小企業の要職はほぼ男性が占め、町内会でも同様である。女性活躍推進について、女性自身も学ぶ必要があり、男性の家事進出（イクメン、イクボス）などは男性や企業など社会全体が学ぶ必要があると感じた。

今回の研修は自分自身にとって新しい考え方や感覚が身につき、とても有意義な研修となった。

今後は男女共同参画社会づくり地域リーダーとしてこの研修で得た知識を周りに広めていき、より良い職場、地域、家庭、社会づくりの一助になれればと思う。

3班

リーダー研修を終えて

福山 節子（山鹿市）

今回地元のつばさ会のメンバーから、「きっとためになるので行っておいで」と背中を押され研修に臨んだ。退職した私にとって、刺激となる講話の数々で、萩原先生から男女共同参画基本法の歴史を学び、これまでに頑張ってきた女性の方々のおかげで今の法が出来てきている。でも世の中はいくら法律ができても、今まで日本の文化として長く息づいてきたものが私たち自身にいつの間にか刷り込まれている。日本で美徳とされているものが、世界と比べていかに遅れているかも知ることが出来、女性が声を上げる大切さもわかった。

またワークライフバランスの話で、今までボランティア活動といったことを、ギフトワークと話されたことが印象的だった。私ができる事をプレゼントする素敵な言葉だと思った。そして、「エセナおおた」でのワークショップで、「女性が働きやすい社会」というテーマでの意見交換会で、社会がどんなに制度や経済的に整ってきたとしても、まずは自分自身がどう働きたいのかを、人生その時々の岐路に立った時に、家庭や職場、地域と話せる関係、理解してもらえる関係が出来ていることが大事ではないかという結論が出た。職場の中で隣の人と仕事以外の話が出来る様になった時、相手の立場の理解や思いやり・感謝ができ、きっと働きやすい職場となるのではないか。女性だけでなく男性も職場での理解、特に理解ある上司（イクボス）がいるとイクメンも増えることを、講話の「イクメンとイクボスが社会を変える」から学んだ。誰もが参加できる社会づくりのために、まずは自分の身近な職場、家庭、地域から発信していこうと決意した研修だった。

私は今、地域の方々の居場所づくりができればと考え、自宅で月に2、3回ほど「田舎カフェ」みたいなことを始め、来られた方々が「であい・助け合い・わきあいあい」で繋がっていけたらと思っている。まだまだ始めたばかりだが今回の研修を受け力が湧いてきたように思える。今を生きる私たち世代が声を上げ、誰もが生きやすい世の中にすることは、未来に向かって生きる子供たちへの最高のプレゼントになることを願ってできる事から頑張りたい。

最後に今回の研修の懇談会で頑張ってこられたこと、これから頑張ろうとされていること、悩んだこと、悔しかったことなど色んな方々とお話しする機会をもらい、人とつながることの大切さをより学ぶことが出来、県内のこんなに素晴らしい方々と知り合えたことは私にとって宝物になった。背中を押してもらったことで今回の研修の一歩を踏み出せたことに感謝している。

研修に参加して

林田 好子（山鹿市）

今年度４月から、人権啓発課男女共同参画推進室に配属になった。配属されるまで、恥ずかしながら、男女共同参画についてあまり考えたことがなかった。

４月に開催された市町村男女共同参画担当者会議で、この「男女共同参画社会づくり　地域リーダー育成事業研修生募集！」のチラシをいただき、前年度参加者の方の声が書かれていた。「県内外の様々な人との意見交換をすることができ、自分のスキルアップや今後の意欲に繋がった。」「家庭や仕事、地域生活のあらゆることに男女共同参画が関わっていることが分かった。」「家庭によって様々な形はあるが、ワーク・ライフ・バランスを進めるヒントを得ることができた。」等、自分自身の今後にプラスになることがたくさん書かれていた。

研修当日を迎え、羽田空港に集合をすると「研修生の皆さんは行動力のある方たち

ばかりなんだろうか。ついていけるだろうか。」と不安を覚えた。

最初に訪れた国立女性教育会館は、広大な敷地にたくさんの施設を備えてあり、このような国の施設があることを初めて知った。国の男女共同参画基本計画等で示された政府の政策に沿って、研修や調査研究、広報・情報発信、国際貢献を実施されており、たくさんの事業の紹介があった。施設見学でお世話になったボランティアの方々が、いきいきとされていたのが印象的だった。

２日目に訪れたエセナおおたは、男女共同参画社会の実現に資するとともに、区民の自主的な活動の場を提供する目的で設置され、男女共同参画推進事業を幅広く展開されており、ここでも職員の方々が、自信を持って仕事に取り組まれている姿が印象的だった。

この３日間の研修では、たくさんの講話を聞くこともでき、講師の先生方の、今までの経験から現在の活動をされていることに共感を覚えることも多々あった。様々な経験の中で、その気づきから行動に移され、自分の理想を追い求められている姿が本当に輝いておられた。理想の追求は、まだまだ果てしなく続いていかれるようにも思えた。貴重なお話を聞くことができたことは、私にとっての財産になった。

男女共同参画の推進については、まだわからないことばかりであるが、今回の研修で学んだことを少しずつでも取り入れていきたいと思った。「みんなが輝ける社会＝男女共同参画社会」かどうかははっきりした答えではないかもしれないが、家庭や仕事、地域生活で輝いている人や、自分の生き方を自分で決める人が増えれば、その先には男女共同参画社会があるのではないかと思った。

このような機会を与えていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいである。まず、自分を見つめ直し、身近にあるものを見つめ直すことから始めていこうと思った。

みなさんとの出会いに感謝。

工藤 麻里（菊池市）

今年４月に男女共同参画推進課に来て、はや10ヶ月。家族や友人から、「何する課なの？」と聞かれながら、「う～ん、男女共同参画を推進する課かな」と自分の仕事を明確に伝えることもできず、ただただ目の前の業務をこなす日々。こんな状況の私が、何か少しでも得ることができたら、「私の仕事はこんな重要な仕事をしているんだよ」と伝えることができたらとの思いでこの研修に臨んだ。

一日目、萩原なつ子教授の講話「～男女共同参画の視点で考える～ひとり一人が主役の地域づくり」の中で、ワークにも４つあること（有給ワーク、ホームワーク、ギフトワーク、学習ワーク）が印象に残った。これまでは、有給ワークをやっていればよかったが、時代は変わってきており、すべてを同時進行で行う時代へとのことだった。これまで私は有給ワークとホームワークでいっぱいいっぱいになっており、ギフトワークと学習ワークをやっていないなと自分を振り返った。人生１００年時代なのだから、人生後半戦に突入するこれからは、ギフトワークと学習ワークを生活の中に取り入れ、４つをバランス良く行っていきたいと思った。

また「としまF1会議」の取り組みを話され、政策の立案及び意思決定過程への男女共同参画の重要性を話された。これまで政策に女性の意見を取り入れて来なかったと聞いて、思い浮かんだのは女子トイレの数だ。女子トイレは長い行列なのに、男子トイレは空いている。こんなに使用頻度が違うのに、同じ数である必要があるのか。日常生活の中で困っていることを困っていると声を上げる必要性を感じた。

男女共同参画推進課に来るまでは、このような気づきは感じなかったかもしれない。感じていたのかもしれないが、思ってもしようがないとあきらめていたように思う。また鈍感になることで自分が傷つかないよ

う守っていたのかもしれないと感じた。
　しかし女性が感じる違和感について声を上げることが、ひいてはすべての人にとってプラスになるかもしれない。社会全体が多様性を取り入れ、一人ひとりが自分らしく生きられることにつながっていくのではないかと感じた。
　私の男女共同参画推進課の仕事は、ひとり一人の人生を豊かにし、自分らしく生きられるように実現させることだと自分なりに結論づけ、なんて重要で尊い仕事だと身が引き締まる思いに至った。
　この研修を通じて、たくさんの熱い志をもった人々と出会うことができて、刺激を受けた。この出会いを今後も大切にして、菊池市の男女共同参画推進に取り組んでいきたいと思う。

研修に参加して

田中 悦子　（長洲町）

　今回の研修に参加したきっかけは､町の職員の方から声をかけていただいたことだった｡私はこの研修に参加する意味があるのかと思ったが、自営業をしていて人に会う事がほとんどなかった為、男女共同参画の事や人がどのような考え方をしているのかに興味を持ち参加することに決めた｡実際､研修に参加し感じたのは､男女や人種関係なくお互いが尊重し合えば、生きやすい世の中が作れるのではと思った。私は 12 年間の会社勤めを経て 30 歳を機に自営業を始めた。会社勤めの時、仕事を頑張っても上がらない給料･同僚からの虐め･パワハラ・12 時間労働は当たり前などと理不尽な思いばかりだった。何のために生きているのか仕事をしているのか分からず過ごしていた。会社勤めに嫌気がさし自営業を始めたが、好きな事が仕事にでき本来の自分を取り戻すことができて、仕事もプライベートも楽しくすることができている。自分が楽しく生きることで、他人にも優しくなれたと思う。セミナーの講師の方の顔がすごくイキイキしており楽しく自分らしく生きている感じがした。それぞれの講師の方の話を聴くと、苦労は計り知れないが目の前に課題があれば解決し、豊かな暮らし築いているのを感じた。それぞれの置かれた立場で楽しく仕事ができ、お互いが認め合い尊重し合える明るい社会作りが出来るきっかけを作っていければと思う。
　研修を通して多くの方々に出会うことができ、仕事をしていく上でのヒントもたくさん得る事ができた。特に男女の固定概念を捨てる事ができたのではと感じた。今回研修で出会った方達との縁を大切にし、これから機会があれば会いたいと思う。研修を受ける機会を作ってくださった町や県の職員の方に本当に感謝です。

研修で変化したこと

木村 可奈子（長洲町）

　今年の４月、男女共同参画の担当になった。男女共同参画ってなんとなくは分かるけど、担当として何ができるんだろう…と不安で過ごしていたところ、このリーダー研修が目に留まり、机の上で悩むくらいならとりあえず動いてみようと思い参加した。
　研修は、意欲を持って！というよりも、どちらかというと何かに頼りたくてという気持ちが大きかったが、研修プログラムが本当に素晴らしく、とにかくどの講座も施設も興味深くて面白かった。
　どの講座においてもそれぞれ感じることや考えることはあったが、学んだことはとてもシンプルで、男女共同参画は「みんなが相手を思いやり、尊重したり、尊敬したりすること」に尽きるような気がしている。そして、男女共同参画の第一歩は、自分の中にいつの間にか蓄積している思い込みを、溶かしていくことかもしれないと感じている。
　私の職場は、女性が働きづらいということを私自身が感じることはない。むしろ女

性の活躍を応援してくれている。ただ、そのことを私自身は勝手にプレッシャーにも感じていて、「女性の視点で仕事をしなきゃ」「女性だからこそ求められていることに応えていきたい」なんておこがましくも思うようになっていた。知らない間に、自分の中で「男女共同参画=女性が活躍すること（しないといけない）」と気負っていたように思う。

でも今回研修に参加して、男女共同参画は、女性のためだけのことではなくて、「性別に関係なく、誰もが活躍できたり、心地よく生活できたりすること」だと改めて感じることができた。

研修の中で、「人や社会は簡単に変われない、だからまずは気づき、行動し、それを習慣化することが大切だ」とあった。男女共同参画もまさにそうで、すぐに現状を変えることは難しいかもしれない。だけど、まずは「気づくきっかけ」を作ることは、担当としてできることかもしれないと研修に参加して、前向きになれたように思う。

研修後、少し肩の力を抜いて仕事ができている自分がいる。あまり気負わずに、自分自身も輝ける仕事や生活をしたいと、今は素直に思っている。

4班

研修に参加して・・・学んだこと・出来ること

園田 百合枝（天草市）

今年の4月から男女共同参画課に異動になり、「男女共同参画とは何か？」を常に頭に入れ、わからないまま流れに沿ってセミナーへの参加、研修会等を開催し月日だけが過ぎていった。地域リーダー研修の事前研修の時も研修はどうなるんだろうと不安だけが大きくなった事を思い出す。しかし、この2泊3日の研修は今までの研修の中で大変、有意義なものになった。

1日目の国立女性教育会館（ＮＷＥＣ）は、「研修事業」「調査研究事業」「国際貢献事業」「広報・情報発信事業」を実施されており、施設の規模も大きく圧倒された。講話1立教大学の萩原先生の講話は、初心者の私にも分かりやすく自然と入ってきた。男女共同参画社会がめざす町は「多様性を大事にする町」であるという事であった。是非、来年度は萩原先生の講演会を開催したいと思った。

2日目の大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）は、①誰もが尊重される安心のまちづくり②多様なライフスタイルの実現の応援③女性活躍で地域力の向上④地域と協働して計画を進めるの4本の柱を中心とした事業を行っており、様々な人をターゲットにした事業展開の工夫など学ぶ点が多かった。班のテーマ「男性の家庭参画を進めるために必要なこと」の意見交換では、それぞれがコミュニケーションを行い、お互いの働き方等を理解する。自分の生き方は自分で決める。自分が出来ない事があった時は他人に頼ってもいいのではないか・・等の意見がでた。それぞれの環境で様々なとらえ方があるのだと感じた。

3日目の講話4「イクメンとイクボスが社会を変える」では、父親が子育てすることによって、家庭が変わり、地域が変わり、企業が変わると社会が変わる。男性の意識改革が女性活躍推進の「鍵」となる。人や社会は簡単に変われない（これまでの経験・常識・考え方・行動等）→「これは良いな」「これは出来るかも」と思ったらとりあえずやってみる。時間をかけながら・・「気づき」⇒「行動」⇒「習慣化」が大事になってくると考える。まずは、日頃の生活・業務の中で変えられることがないか探してみようと思った。

この3日間の研修を通して、色々な方と出会い「男女共同参画」についての、「とらえ方・取組み方・考え方」について学ぶことができ、それぞれの講話から、「これから自分が出来る事」「やっていかなければならない事」を考える良い機会となった。この研修で、共に行動をした班の方は勿論、他市町の方との交流もあり、情報の共有ができ、

繋がりが持てたことは大きな成果になった。この研修で学んだ事をこれからの業務に活かし、「男女共同参画」を進めていきたい。

研修で感じたこと

川島 ひとみ（宇城市）

実は、この研修は、期待より不安いっぱいで参加させてもらった。私にとって、どのくらい意識向上になるのか？しかし、あらためて色々考える機会となった。

国立女性教育会館（ヌエック）では、すばらしい施設見学と事業説明を聞いた。男女共同参画の視点に立った事業が、色々計画されており、女性のみならず、男性・学生を含め、社会での能力発揮につながっている。

また、「エセナおおた」でも事業説明、施設見学を行い、意見交換会では「男性の家庭参画を進めるために必要なこと」を議題に話し合った。世代間のギャップがあり、年代によっては難しい面もあると思うが、お互い感謝の気持ちをもち、感謝の言葉をかけることが大事との意見が出た。

また、エセナおおたでは、高齢男性の介護塾、生き方塾やパパと赤ちゃんの親子教室等に多数の申し込みがあり、抽選をし、また同じ人ばかりにならないように調整されているとのこと。確かに、若年層に男女参画の啓発活動を行い、習慣化したいものだ。

東浩司先生の講義で「いい父親ではなく、笑っている父親になろう」「まず自分が太陽になろう」「ありがとうから始めよう」「育児で高まる仕事力！」「イクメンは新しい時代の男の生き方」など、興味深い言葉ばかり聞いた。父親が育児するメリットは確かに大きい。

私は、夫・長男夫婦・次男夫婦とともに農業を営んでいるが、我が家なりに、話し合い、仕事の調整をし、ゆとりのある時間をもつようにしているが、この研修でさらに再認識する機会となった。

また、女性農業者として、経営力向上に向けて色々取り組んだり、女性農業者の能力を社会に活かし、若手女性の就農者の増加など、私なりに女性リーダーとして、次世代リーダーの女性農業者を増やしていければと思う。

そのためにも、頭のアンテナを高くし、情報収集し、心のアンテナを広く、日々色々なことに感動、感激、感謝を忘れず、自分にできることを今から取り組んでいきたいと思った。この研修は、私にとって勉強のみならず、友達との出会いにもなったことに感謝したい。

研修に参加して

村上 雅宣（宇城市）

今回、この地域リーダー育成研修に参加したきっかけは、4 月から男女共同参画の担当部署に配属されたことによる。実は、私自身は 3 月末で定年退職し、再任用職員として配属されたが、「男女共同参画社会づくり」という言葉は知っているだけで、具体的にどうしたらよいのかということが分からず、不安な毎日を過ごしており、まずは勉強のためということもひとつの参加理由である。

3 日間の研修を通しての主な内容や感想としては、まず国立女性教育会館（ヌエック）、それから大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）の 2 つの施設を見学させてもらったが、それぞれの施設と事業内容などはすばらしく、またボランティアスタッフの方々もいきいきと活動されており、今後の参考として見習うべきことがたくさんあった。

その中で、エセナおおたの職員及びボランティアとの交流会ではより具体的ないろんな講座のことや、個別の事業内容のことなどの話ができて、非常に良かったと思う。特に、スタッフの方々が、みなさん高い意識は持ちながらも、それぞれ肩の力が抜けていて、できることを少しずつ、長く続け

られている印象を持った。それぞれスタッフが、信頼し合いながら運営されているのだと感じた。

地域共生社会とは、地域のあらゆる住民が役割をもち、支え合いながら暮らすことのできる地域づくりをめざすこと、まさに地域社会は「民主主義の学校である」とエセナおおたのチラシに書いてあり、私自身もそのとおりだと思う。

それから、いくつかあった講話についても、すばらしい方々のお話が聞け、今後の参考になることがたくさんあったが、中でも、まず萩原なつ子さん（立教大教授）が話された「今まで刷り込まれてきた価値観・意識を一度捨て去り、男女共同参画・人権を大切にする社会をめざす」ということや、東浩司さん（ファザーリングジャパン理事）の「人や社会は簡単に変われない。まわりを暗いと嘆くのではなく、自分が太陽になって輝けばいい。」というフレーズが特に印象に残った。

私が住む地域は、まだまだ性別役割分担意識が残っており、女性が地域の中で活躍することが不十分と思われる。まずは、自分の家庭や職場も含めて、「男女共同参画社会づくり」について、できることを少しずつ始めていきたいと改めて思わされた 3 日間の研修であった。

最後に、今回お世話いただいた県の担当者の方々、また同じ 4 班及び参加者の方々に、楽しく過ごせたお礼を申し上げ、報告とする。

地域リーダー育成事業 県外研修を終えて

谷川 淳子（益城町）

二泊三日の県外研修に参加しいろいろな研修を受けて、男女共同（協働）参画の意義について学びを深めることが出来た。萩原なつ子立教大学教授による『一人一人が主役の地域づくり』をテーマにした講話は、わかりやすく、また、なるほどと頷く内容だった。男女共同参画の変遷を学び、女性差別の撤廃、男女が平等に職業や社会参加ができる世の中にしていくために、地域や社会、家庭ワークにおける協働と意識の改革が益々重要になっていくと感じた。

藤本有希氏の「いなか学校」の取り組みとそこから繋がっていく男女共同参画や共生社会の実現について聞き、水俣を大切な故郷としておられる氏の想いに触れ、当たり前に思っている自分の故郷を、改めて大切にしていかなくてはならないという思いを強くした。

「エセナおおた」では、職員の方々と意見交換の中で、男女共同参画推進活動のみならず、様々な地域での取り組みやイベント、講座の主催をされていて、年齢や性別にこだわることなく、広く活動の拠点になっている素晴らしさを感じ、誰でも集え、参加できる拠りどころ的な場所（環境）が必要だと思った。また、班のテーマであった「男性の家庭参画を進めるために」について、いろいろな意見交換ができ、男女関係なく協働して、出来る人が家庭ワークをやる意識を持って協力し合うことが大事であるという結びになった。

「メディアとジェンダー」の田中東子大妻女子大学教授による講話では、日常何となく見過ごしているメディアの広告等について、性差別やジェンダーの問題をきちんと見極めることの大切さや、沢山のメディアのメッセージにはいろいろな意味があることを学んだ。

東浩司氏による「イクメンとイクボスが社会を変える」という最近よく耳にする身近なテーマで、父親業真っ最中の氏の多彩な活動や、社会に投げかけている、いろいろな発信力が素晴らしいと思った。最後の柴崎氏のチラシ作りの研修については、記録係で記載したが、デザイン力とセンスを磨きたいものだと思った。

多方面からの男女共同参画社会づくり研修を終えて、男女共同参画について、自分自身が体験してきたことや、職場における男女共同の感覚は自分なりに理解をしてきたつもりであったが、改めて深い意味や意義を学び、男女共同参画社会の実現のために、まずは、身近なところから構築していかなければならないと痛感した。女性の職

場進出や男女隔たりなく同じ仕事を同じようにすることが少しずつ当たり前になってきつつあるものの、まだ現状は根強い男女差別の偏った意識があることも否めない。もう一度、小さなことから振り返りながら、すべての人が、当たり前に暮らしや社会生活が営めるように、自分自身が学びを深め、次世代へとつなげていきたいと思っている。

研修に参加して

岩下 幸子（益城町）

この研修に参加してまず、男女共同参画について学びたいと考え自ら進んでこの研修に参加されている参加者の方々の熱量に圧倒された。

私が参加したきっかけは、4 月の異動で男女共同参画係に配属になり、上司の勧めがあってのことだ。

また、これまで男女共同参画という考えに対して直接向き合うことのなかった私は、担当となったことで、様々な研修や勉強会に参加したが、正直なところ、積極的に男女共同参画を推進したいという考えを持ち合わせているわけではなかった。

しかし、今回の県外研修に参加したことで、多くの学びがあり、自分の中の意識も大きく変化した。

女性の社会進出・男性の家庭参画を促進する事、男女がフィフティフィフティの関係になること＝男女共同参画と単純に考えていた。しかし、それはとても表面的な認識であったと改めて気づかされた。

今回の研修で 5 名の講師の方の講話と先進施設の見学・説明等を受けたが、その中で印象に残ったのが、藤本有希氏の講話の中で、性別のみならず、人種、宗教、年齢、障害の有無等々すべてを含め、本当の共生社会を考える時代に来ているという言葉だ。お互いが相手の立場で考え、合理的配慮を行うことが共生社会の実現に向けてもっとも大切だという。

今後、また別の部署に異動になることがあるだろう。他業務を行う際も、この研修で学んだことを活かし、男女共同参画という視点を常に念頭に置き、様々な業務に携わっていきたいと考える。

最後に、この研修を通じて他市町村の行政職員の方や、様々な職業・活動をされている方と交流できたことは私の財産となった。県の担当の方、今回参加された研修生、また、共に課題を熟考した 4 班の皆さまに感謝を申し上げ、報告とする。

県外研修の一コマ

今回の研修のように、外に出ることによって得られる経験が沢山あるのだと改めて感じた。熊本県外の環境にいる方のお話を聴けたり施設を見学出来たりと、とても新鮮だった。

特に印象的だったのは、研修中にセミナーの講師をしてくださった先生の顔がイキイキとしていたことある。目標があって突き進んでいる人の顔は違うなと感じた。普段の私は自分の世界観で生きており固定概念の塊だったが、研修に参加して考え方を変えたりものの見方を変えたり固定概念を捨てる事ができて良かった。私も自分らしく楽しく仕事をしたいと強く思った研修だった。

今後も研修で見て聞いて感じたものを、仕事にも生かしていきたいと思う。また同じ班の方の住まいが近場だったので、今後も繋がって何か出来ればと思った。今回の研修で出会えた人と研修を企画してくださった熊本県と研修に誘っていただいた役場職員にとても感謝です。

田中　悦子（３班／長洲町）

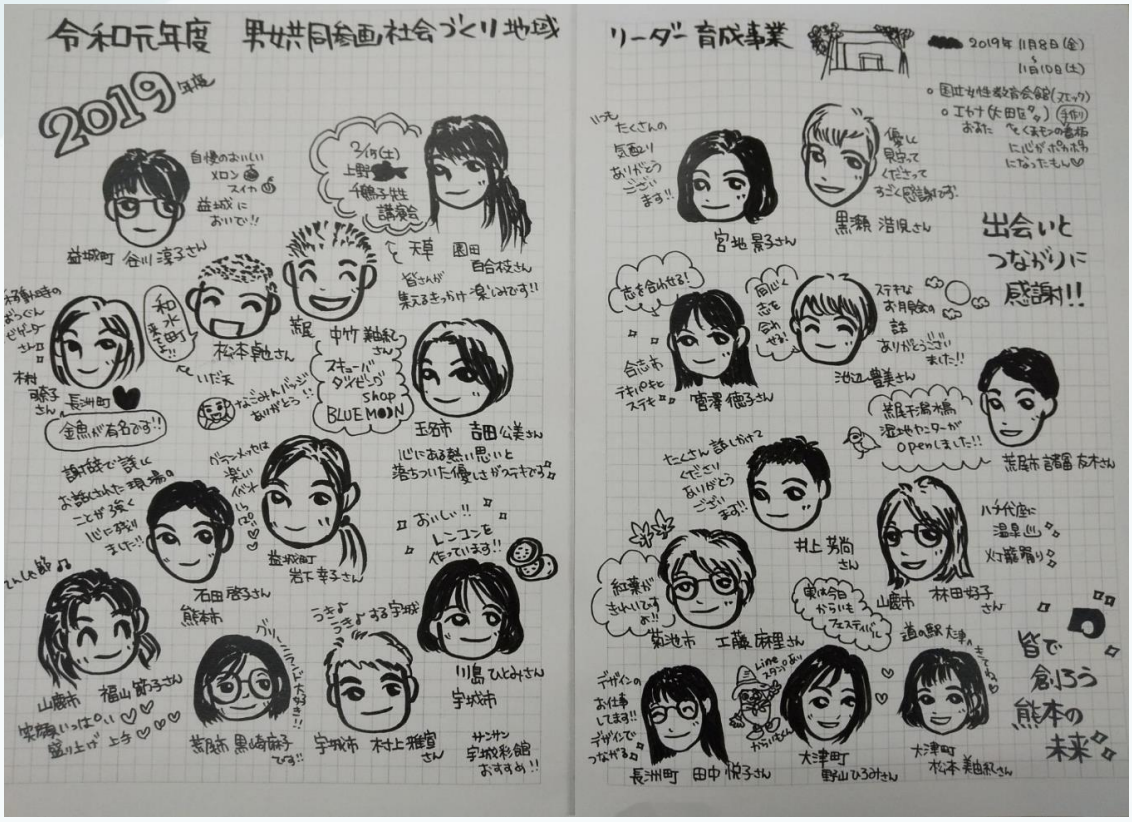
研修２日目の昼食は、エセナおおたの職員の方やボランティアをされている方々と交流会を兼ねたものだった。

「はじめまして」の方々とぎこちなくスタートした昼食交流会も、彩り豊かなお弁当に舌鼓をうちつつ、徐々に打ち解けて会話も盛り上がっていく。午前中のエセナおおたでの事業説明や施設見学で興味深かったことをさらに掘り下げて聞いてみる。エセナおおたにはボランティアとして関わっている方が 100 名超いらっしゃるとのこと。各月 1 回の学習会を行い、常時 30 名程度が活動されているという。エセナおおたで開催されている講座等の卒業生が独自にサークル活動を行ったり、ボランティアとしてエセナおおたにかかわっているそうだ。このように、受講をきっかけに繋がったご縁をそこで終わるのではなく、様々な形で関わり続けることができるシステムは、ぜひとも参考にしたいところである。

昼食の時間もあっという間。「カフェおひさま」で作られた茶菓子を差し入れていただき、打ち解けた雰囲気のまま、午後の意見交換会のテーマへと話を進めた。

岩下　幸子（４班／益城町）

自主研修報告書


令和元年度 男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業
2019年度
2019年11月8日(金)
&
11月10日(土)
出会いとつながりに感謝!!
皆で創ろう熊本の未来

エセナおおたへようこそ!

STOP DV
エセナおおた
the
パープルリボンプロジェクト

「男女共同参画研修報告会」

［1 班：石田　啓子（熊本市）］

日時	令和元年 11 月 21 日（木）13：00～14：30
場所	料亭「青柳」の一室
参加者	「さわやか大学校」第 27 期卒業生　6 名
形式	研修報告及び意見交換
ねらい	・研修の内容を報告し、情報を共有する。 ・男女共同参画社会の概念について、関心を持ってもらい、それぞれの状況において男女共同参画の視点で考えていけるようにする。
内容	・県外研修の資料を基に、その中から伝えたい内容をピックアップしたものに自分の意見を加えて発表する。 ・意見交換
感想等	参加者は、平均年齢約 70 歳、それぞれ人生経験が豊富な方たちなので資料を読んで説明するより、自由に意見を言ってもらう方が良いと考えた。 まず、導入として事前研修で資料にあった問題を考えてもらうことにした。「交通事故に遭って救急病院に運ばれた男の子の顔を見て、外科医が自分の息子なので手術が出来ないと言った。この外科医と男の子との関係は？」という問題だ。これにより、一気に集中して考える雰囲気ができた。 次に研修資料（「はあもにい」の資料も含む）の説明に入り、読み合わせをした後に、質問タイムを設けて意見交換をした。 「能力があるのに、女性が会社の管理職になれないのはなぜか」 「男性の育児休暇取得が、難しいのはなぜか」等々。活発な意見が交わされ大いに盛り上がった。 自分たちの世代で考えを変えるのはなかなか難しいが、自分たちの子ども世代は確実に変わってきている。世代交代が進めば社会も良い方向に変化していくのではないか。という意見も出た。 最後に、参加者からは「男女共同参画」について、色々知識を得られ、それで気づかされたことがあり、自分たちの視野も広がったので良い機会になった」などの言葉をいただいて有り難かった。

「自主研修実施報告書」

［１班：池辺　豊美（合志市]］

日時	令和元年 12 月 4 日（水）11：30～12：00
場所	永江ふれあいセンター
参加者	永江団地ふれあいサロン参加者 23 名
形式	男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業に参加しての報告と 地域の問題についての意見交換
ねらい	全ての人が協力して、地域活動に参加する事。
内容	高齢者支援のための集まり「永江団地ふれあいサロン」において、以下のとおり研修内容について報告した。 「本年 11 月に、20 名の方と一緒に「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業」の研修に参加した。数多く学んだ中で 1 番印象に残っている事は、私達一人ひとりがお互いに助け合い、性別に関係なく偏見のない個性を十分に発揮できるような、地域づくりを目指さなければならないと言う事であった。」 その後、今、自治会の身近な問題である違反ゴミの問題について意見を聴いた。
感想等	私の身近なところでは、今、違反ゴミの問題がある。分別がされていない、指定日に出されていない、袋に名前がないなどの理由で収集されないゴミが残されている。残されたゴミはゴミステーション当番、班長、町内会長、環境部長など、全く関係ない人が処理している。地域の人にとっては、自分たちはきちんとしている、そんなに違反ゴミがある事を知らなかったなどといった声も聞かれるが、そういったことは地域の人たちそれぞれが、このような問題に対する認識の弱さの表れではないかと感じている。違反ゴミの問題は、短時間で解決できるものではないので、根気強く情報発信していく必要があろう。 先般、地域の住民代表者による会合があり、その中でこの問題についても議題として取り上げられた。皆さんの意見を聴く事ができた事は十分に意味あるものであった。ルールを守って出されている人が多い事も分かった。その一方で、一部の人に認識を高めてもらうにはどうすればいいか、これから私にできる事はないか。少しずつ周囲の方々と協働しながらできる事を探っていきたいと思う。

「地域リーダー研修報告」

［１班：管澤　徳子（合志市）］

日時	令和元年 11 月 21 日（木）
場所	合志市役所　庁議室
参加者	合志市男女共同参画懇話会委員 11 名、合志市総務課職員 2 名
形式	研修報告会
ねらい	・地域リーダー研修の内容を報告し、情報を共有する。 ・男女共同参画社会の必要性を再度考えるきっかけを作る。 ・来年度以降の研修参加促進
内容	・研修について時系列にまとめた資料を作成し、その中で得た気づきや学び、感想などを織り交ぜながら報告 ・「チラシの作り方講座」の研修で学んだことを活かし作成したチラシを発表し意見交換 ・研修参加に対する市の費用助成について説明
感想等	研修の報告を行った「合志市男女共同参画懇話会」は市民の視点による男女共同参画社会を推進するために、市内で活躍されている各団体から選出され構成された会である。委員の皆さんは既に様々な活動を通して、男女共同参画社会づくりのために活躍されている方々で、私の拙い説明でこの充実した研修内容が伝わるか不安であったが、皆さん熱心に聞いていただき感謝している。 チラシの作り方講座で学んだことを活かし作成したチラシ 2 種類を皆さんに見ていただき、意見・感想を付箋に書いたものを貼ってもらった。自分では気づかなかった指摘をしていただき、何事にも多様な視点を取り入れることは大切なのだと改めて気づかされた。 私は担当職員の立場で今回の研修に参加したが、市からは他に 1 名が一般研修生として参加された。市の男女共同参画社会づくり促進のためにも、今後も是非市民からの参加をしていただきたいと思い、研修の周知と費用助成について説明を行った。

「研修報告会」

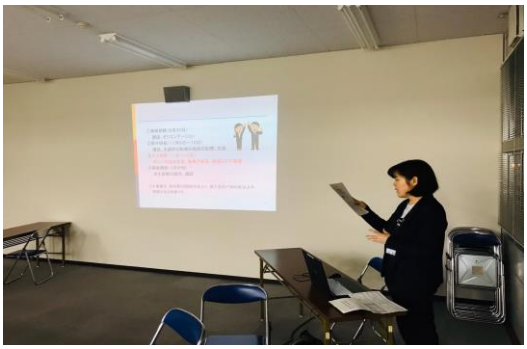
［1 班：野山　ひろみ（大津町）］

日時	令和元年 11 月 19 日（火）
場所	大津町役場　仮庁舎 2Ｆ大会議室
参加者	大津町男女共同参画審議会 12 名、人権推進課 2 名
形式	研修報告
ねらい	県外研修で学んだ事の報告と情報共有。
内容	地域リーダー研修報告書をまとめた資料を配布、説明報告。 意見交換会「男女共同の視点で考える防災」の情報を説明。
感想等	3 日間の研修内容をみなさんにお話しながら、立教大の萩原なつ子先生の 4 つのワークの中の「ギフトワーク」の言葉に、素敵な言葉ね！と言って頂き、また、意見交換会の報告で、地域に応じた、避難所運営ゲーム HUG 作りの必要性や、各団体の集まる機会を設けて「大人の散歩」から始めてみてはどうか？の提案に、うなずきながら聞いていただいた。 大津町の審議会委員の方は、リーダー研修に参加された方も多く、今後も皆さんと一緒に、男女それぞれの意見が活発に飛び交う町づくりが出来るように、周知や啓発活動に取り組んでいけたらと思った。 まずは、身近な家庭、近所から始めていきたい。

「男女共同参画研修報告会」

［１班：松本　美由紀（大津町）］

日時	令和元年 11 月 19 日（火）
場所	大津町役場　仮設庁舎 2 階　大会議室
参加者	大津町男女共同参画審議会委員 12 名　人権推進課 2 名
形式	研修報告会
ねらい	今回の研修に参加して学んだことを報告し、情報を共有する。先進地事例や国の状況等について情報提供を行い、男女共同参画社会への意識を高めてもらい、それぞれの活動の中での男女共同参画について考えてもらうきっかけにする。
内容	・地域リーダー育成事業の概要を説明し、県外研修プログラムを説明。パワーポイントの資料を作成し、２つの講話について自身の意見を話しながら説明。 ・講話①「男女共同参画の視点で考える、一人ひとりが主役の地域づくり」 ・講話④「イクメンとイクボスが社会を変える」
感想等	①人口流出や少子高齢化による消滅可能性都市を持続発展都市にするため、行政が若年層女性の声に触れる機会を作るための「としまＦ１会議」の取り組みを説明。女性が暮らしやすいまちになれば、実は高齢者や障がい者、男性にとっても優しい多様性を大切にするまちづくりに繋がること。千円札の事例を説明し、人間は意識して物事を見なければ、無意識のうちに偏見を持つことがあるため、男女共同参画を進めていくなかでは意識して見つめ直すことが大切であることを説明。常に意識をして物事を考えることについて、参加者の共感を得ることができた。 ④ワークライフバランスや男性の育児休業取得率が上がらないことなど現状を説明。女性活躍推進のカギは「男性の意識改革」が握っていること。ボウリングの一番ピンの話をしたところ、男女共同参画社会のイメージがしやすかったとの感想があった。 ・講話の内容に、人や社会は簡単に変われないこと。しかし、「気づき」「行動」「習慣化」していくことで文化（空気）を変えていくと聞いたとき、すごく納得することができた。社会は少しずつだが変化をしているものだけど、声に出して行動していかなければ変化はわずかしか起こらない。男女共同参画を啓発していく仕事を任されたからには、自分が得た知識や気づきを情報発信しながら、少しずつでも文化（空気）を変えていきたいと思った。まずは、できることから始めていきたい。



「経験事例から考える男女共同参画」

［２班：中竹　美由紀（荒尾市）］

日時	令和元年 11 月 30 日（土）
場所	荒尾市住吉公民館
参加者	地域交流会参加者 12 名
形式	講義及び意見交換
ねらい	・ 地域の方々に男女共同参画を身近なものに感じて頂く。 ・ 男女共同参画の意義を経験談から考えてもらう。
内容	月１回実施されている地域交流会の主催者と調整を行い、発表の時間を１時間ほど頂いた。 まずは、研修で学んだ内容をもとに、男女共同参画の概要や考え方、取り組み方など基本的なことを説明した。 次に、海外派遣での教育及び臨床での経験談を紹介し、「共同」「参画」の意義、相手の事を考えること、行動を起こす大切さなど、そこから見える男女共同参画について考えてもらった。 発表終了後、地域交流会の中でリラックスした形での意見交換を行った。
感想等	参加された方々の中には、実際に地域で活躍をされている方も多かったが、男女共同参画についてほとんど認識がないという方々も参加されており、まずは基本的な説明を行って、共感して頂くとともに理解を示して頂いた。 私の経験談では「レモンになりたくて　～自分にできること～」というテーマで具体的な事例を挙げることにより、皆様に大変興味を持って聴いて頂き質問も沢山あった。「１時間では足りなかった。」「是非また話を聞く機会を。」「うちの職場でもお話を。」等々の有難いお言葉を頂き、次回の調整中である。地域リーダー研修を通して得られた知識は、経験に厚みをもたせた裏付けとなった。 今後は地域における活動で色々な経験をし、それを伝え、地域の方々をけん引して行けるようになればと思う。

「小学校高学年生への男女共同参画の授業実施」

［２班：黒崎　麻子（荒尾市）］

日時	令和元年 12 月 17 日（火）14:10～15:50（間に休憩 10 分挟む）
場所	荒尾市立清里小学校
参加者	児童 31 名（5 年生 13 名、6 年生 18 名）見学としての大人 7 名
形式	ワークを導入した授業
ねらい	男女共同参画という言葉を知り、その意味を理解する 一人一人の違いがあることを認める大切さに気づく 自分らしさを大切にできる心を育む
内容	『男女共同参画』って何だろう？を主軸とし、導入と結びで「わたしはあかねこ」という絵本を使用。当たり前や思い込みに縛られていないか、グループでのワークを通し、気づきを促す。また、だまし絵の紹介により認知の仕方で見え方が変化することを実感してもらう。それらから、思い込みと行動とに関連があるため、思い込みを捨てることが世界を広げることになる。『男だから』『女だから』のように『〇〇だから』と縛られる考えはよくない旨を伝える。 一人一人の存在が大切であり、自分のことも相手のことも大切にできるように、違いをポジティブに受け入れることが幸せを創ることになるとを伝える。 また、パラレルキャリアの『４つのワーク』、学ぶことは人から奪われない、とても大切な財産、力であることも伝える。
感想等	内容の理解に関するアンケートと感想を児童一人一人に記入をしてもらった。 <u>自由記述の解答より抜粋</u> ・男女共同参画という言葉を初めて知った ・考えを 180 度変えてみると気づくことがあると知った ・人の違っているところも素直に認めて人と仲良くしたい ・一人一人違いがあることはいいことだなと思いました ・〇〇だからという言葉を使わずに一緒にできることを大切にしたい ・男女共同参画とは一人一人が輝いて繋がっていくことだと思った ・一人一人らしく輝ける熊本を創るために一日一日を大切にしたい ・皆それぞれの考えを受け止めて、一人一人が輝ける世の中を創りたい <u>『男女共同参画』のことでもっと知りたいことは？に寄せられた回答</u> ・生きること？ ・何をするとよいか『〇〇だから』と思わない以外に何ができるか ・まだ、男女共同参画できていないことはあるのか

☆同、清里小学校にて令和 2 年 3 月 1 日（日）に PTA 研修において講演（45 分）が決定

☆11/29（金）荒尾市のコスモス会と大牟田市（福岡県）の翼の会の交流会で 15 分程の報告発表をした

「自主研修報告書」

［２班：諸冨　友木（荒尾市）］

日時	令和元年 12 月 26 日（木）
場所	荒尾市役所
参加者	荒尾市役所職員 8 名
形式	研修報告会
ねらい	男女共同参画社会づくり地域リーダー研修に参加して、自分自身の意識が変わった事を報告し、職員間での情報共有を図る。
内容	事前研修で学んだ、男女共同参画が国の重要政策となっているのかを説明し、漠然と男女共同参画をイメージするより、個人の行動や意識を変えていく事が、国の社会経済への対応に繋がっていると最終目的を意思統一することが重要であることを共有した。 また、県外研修で学んだ、4 つのワーク①ジョブワーク②家庭ワーク③ラーニングワーク④ギフトワークについて、4 つのワークをバランスよくしていくことの大切さを説明した。
感想等	4 つのワークのバランスを保つことは、個人の意識だけでは達成できず、会社や社会が同じ方向を向いている必要があり、職場や地域に４つのワークという言葉を広めていきたいと感じた。 これからの地方自治には特にギフトワークは欠かせないものであるので、意識を変えて今後の自分自身の仕事にも繋げていきたい。 研修会参加者からは、男と女ではなく、ひとりひとり違うことを認識して、得意分野、不得意分野があるため、それぞれが得意な分野を担えばよいとの意見があった。また４つワークにつては、その研修を受けてみたいという意見や、ボランティアというよりギフトワークという言葉でひとつの仕事とイメージするほうが参加しやすくなるという意見もあった。

「男女共同参画県外研修報告と令和２年度活動企画案」

［２班：吉田　公美（玉名市）］

日時	令和元年 12 月 18 日（水）
場所	くまもと県北機構公立玉名中央病院
参加者	看護師長、主任 15 名
形式	パワーポイントを使用しての説明、動画視聴、アンケート
ねらい	・熊本県男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業県外研修報告を通して男女共同参画の概要の理解と女性の多い職場での取り組みの必要性の理解を得る ・令和 2 年度に病院内で活動グループを新たに作り、研修などを開催する活動企画案を説明し理解・賛同を得る
内容	以下の内容についてパワーポイントを使用し説明する ・熊本県　男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業について・研修報告 ・男女共同参画の概念・歴史について ・データでみる日本・熊本県のジェンダーギャップについて ・ＣＭ動画 2 本(2 本で約 6 分)を視聴後、同じ机の職員と意見交換し、世論と海外の価値観、自身の価値観との違いについて考える ・令和 2 年度男女共同参画活動の企画案の主旨・内容の説明 ・令和 2 年度の男女共同参画推進活動メンバー募集の説明 ・アンケート記入(任意)
感想等	男女共同参画推進の必要性を、女性看護師が多く働く職場の管理者に理解して欲しく、師長会での報告をさせて頂いた。男女共同参画の概要は理解して頂いたと感じた。対象者の管理職は 40～60 歳台で、自分達も大変な思いをしながら子育てと仕事の両立に奮闘し、キャリアを築いてきた経験がある。私達が研修中に見たオムツのＣＭ2 本を見比べ、自分と世論の価値観について考えてもらった。年齢層が高いためか、アンケートの内容からもＣＭに対する反応は 2 本とも肯定的なものがやや多かった。炎上する若い世代とのジェネレーションギャップに驚きと、無意識の性差別に気づかされたとの意見もあった。当院では産休・育児休暇を利用し、仕事を継続する若い看護師も増えており、今回の研修報告が働きやすい環境作りと男女共同参画の推進に役立つといいと思った。 さらに、企画案が通れば令和 2 年度の活動を充実させてきたいと考える。

「研修報告会」

［２班：松本　卓也（和水町）］

日時	令和元年 12 月 16 日（月）　11:45～12:45
場所	和水町役場本庁　会議室
参加者	和水町職員 15 名
形式	研修報告会
ねらい	事前研修及び県外研修で学んだことの報告、男女共同参画社会の実現につなげる
内容	事前研修及び県外研修の内容を簡単にまとめた資料を作成し、主に次の事柄について報告を行った。 ・女性の社会進出について、男性の家庭進出について ・イクメン、イクボスの役割について ・男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて
感想等	イクメン、イクボスの重要性、女性の社会進出、男性の家庭進出について理解を得ることができた。 「役場が率先して取り組み、企業や地域社会に広げられるように」、「人の考え方は急には変わらないと思うが、長い時間をかけて地道に広げることで、男女共同参画社会が実現する」という意見が出た。 今後も地域のリーダーとして研修で得たことを発信していきたい。

「男女共同参画研修報告」

［３班：福山 節子（山鹿市）］

日時	令和元年 11 月 20 日（水）　14：00～15：00
場所	山鹿市民医療センター内 保育所
参加者	院内保育所　職員 6 名　院内保育所運営委員会会長　1 名　計 7 名
形式	研修報告と意見交換
ねらい	・研修で学んだことをレジメに沿って報告し、参加しての感想を伝え、それぞれの感想や意見交換を行うことにより内容を共有する ・女性が働きやすい職場について話す
内容	・男女共同参画の現状などを自分のまわりで考えてみる ・今の職場は働きやすい職場になっているかを検証する
感想等	◎家庭における男女共同参画を考える 「60 代の家庭では、日本の女性に対しての固定概念が強くて、夫をたて、子育てをし、嫁は親の介護をすることを美徳として刷り込まれてきているので、なかなか今までの習慣は変えられない。でも腕を骨折し家事が出来なかったことがきかっけで、夫が家事をしてくれるようになり、今も手伝ってくれている。何かのきっかけがあると変わることが出来ると思う。」また「30 代の家庭では夕食の準備はするので、夕食の片付けは夫がしてくれている。家事は出来る人がするようにしている。」など年代で随分と男女共同参画の考えが違ってきている。でも何かのきっかけや話し合いなどで変わることが出来るという意見もでて、まずは自分の家庭から働きかけをしようと意見でまとまった。 ◎今の職場は働きやすい職場になっているかを検証する 「子どもが保育園の頃、病気で休まなければならない時、『大丈夫よ』と仲間から言われたときとても精神的に楽になった。」「相手の立場に立って助け合うことは大事なので、そこはこの職場はできていると思う」などの意見も出た。 私たちの職場は、病院で働く職員のための施設なので、いかに職員が安心して生活できるように、これからもしっかりとコミュニケーションを取り合っていこうということを確認することが出来た。

「自主研修実施報告書」

［３班：林田　好子（山鹿市）］

日時	令和元年 12 月 2 日（月）（報告会）
場所	山鹿市役所人権啓発課執務室内
参加者	人権啓発課職員 9 名
形式	研修報告書を課内回覧及び報告会
ねらい	研修内容の共有及び男女共同参画に対する関心と見識を深める。
内容	【研修報告書】 　研修の内容や感想を視察や講話ごとに時系列にまとめ、報告書を作成した。作成にあたっては、気になる事柄について再度調べたりしたので自分自身の復習になった。 【報告会】 　まず、視察をした施設について報告した。持ち帰った「国立女性会館の概要」や「エセナおおたの 2018 年度報告書」をもとに説明を行った。次に、講話や交流会の中で印象に残ったことについて、資料から抜粋し作成したものを参加者に配布をした。 ・パラレルキャリア＝4 つのワーク（人生の役割） ・雑談できる職場は生産性が高い ・人や社会は簡単に変われない ・お互い“ありがとう”と言える関係
感想等	自主研修として、研修報告書の作成や報告会の場を与えていただくことができ、研修で頭の中が飽和状態だったものを少し整理することができた。「男女共同参画推進に関する施設を見学したこと」「男女共同参画社会を実現させるためにはどうしたらよいかを研究・実践されている講師の先生方のお話しを聞けたこと」を振り返ることができ、改めて貴重な経験をさせていただいたと思えた。 　報告会においては、印象に残ったことを伝えることができてよかったと思う。このことは、広くは「生き方」に通じること、また身近なところでは職場等で「すぐにでも心がけができること」と思い、発表させていただいた。身近なところの気づきから始まり、その先に男女共同参画の視点が広く浸透していくよう啓発活動をしていきたいと思った。「エセナおおたの 2018 年度報告書」は、男女共同参画推進室の事業を進めていくうえでの参考にさせていただきたいと思った。

「男女共同参画研修報告」

［３班：工藤　麻里（菊池市）］

日時	令和元年 11 月 15 日（金）　14：00～16：00
場所	菊池市役所　304 会議室
参加者	菊池市男女共同参画推進審議会委員　8 名
形式	研修報告会
ねらい	地域リーダー育成事業の参加報告により、研修内容の共有と先進地事例や国の状況等について、情報提供を行い、男女共同参画社会への意識を高める。
内容	第 2 回菊池市男女共同参画審議会の議題の 1 つとして、地域リーダー育成事業県外研修報告を行った。 ・研修内容を時系列に文章にて報告 ・次年度リーダー研修へ参加募集の案内 ・意見交換
感想等	報告書は、講話等を時系列に文章と写真で作成したが、発表時は、講話の中でも特に印象に残った、萩原なつ子教授の「男女共同参画の視点で考える～ひとり一人が主役の地域づくり」の講話と田中東子教授の「メデイアとジェンダー～広告の炎上を事例に考える」の講話の２つを中心に話をした。 審議会の委員さんらは、私の話を熱心に聴いていただき、以前このリーダー研修に参加された方もおられ、参加された当時の話なども聞かせて頂いた。 委員さんからの質問としては、萩原教授の講話にあった 4 つのワークについてお尋ねがあり、お金を稼ぐワーク以外にも、家事や育児などのホームワーク、地域活動やボランテイアなどのギフトワーク、学びなどのラーニングワークがあるということが新鮮だったようだ。 また田中教授のメデイア講話を受けて、最近の CM には、夫婦 2 人でカレーを作っている CM もあり、世の中の意識が変わってきていると認識したとの感想もあった。 今回は男女共同参画審議会の中で報告を行ったが、菊池市には女性団体代表者会という組織もあるので、折を見てそちらの中でも報告を行い、地域リーダー育成事業の PR と男女共同参画社会への意識向上に努めたい。

「男女共同参画研修報告」

［３班：田中 悦子（長洲町)］

日時	令和元年 11 月 28 日（木）15：00～17：00
場所	長洲町　カフェあゆたり
参加者	自営業　2 名
形式	研修報告会
ねらい	身近な男女共同参画
内容	働きやすい環境づくりについて考えてもらう
感想等	長洲町で自営業をされている方に、男女共同参画研修で学んだことや感じたことの報告会を行った。 〈参加者からの感想〉 ・性別や年齢の垣根を超えて、対等に仕事ができる環境づくりが大事だと感じた。それを行うためにはまず自分の考え方を変える。 ・自分のパートナーにもただ働くのではなく、何か生きがいを見つけ楽しく生活し働いてほしい。 ・まずは自分が楽しくあることが大事。 自分自身が何かに熱中するものがあったり、楽しくしていたりすると、まわりを気にしなくて良くなるし、人の悪口を言わなくなる。 ・人を変えようとするのではなく、自分が変わること。 ・男女共同参画を伝えるのは、今日だけではなく継続的に情報発信を行う。

「男女共同参画研修報告会・意見交換会」

［３班：木村　可奈子（長洲町）］

日時	令和元年 12 月 18 日（水）
場所	長洲町役場　応接室
参加者	町職員 6 名
形式	研修報告及び意見交換会
ねらい	・県外研修の内容を報告し、情報共有を図る。 ・男女共同参画について考えるきっかけを作り、意識啓発の機会とする。 ・意見交換により男女共同参画社会を推進していくためのヒントを探る。
内容	県外研修を抜粋し、内容の報告を行った。 また、関連する新聞記事等を共有し、意見交換を実施した。 （１）２社のおむつＣＭを見てもらい、その違いを感じてもらう。 （２）ＮＰＯ法人ファザーリングジャパン東氏の講話資料の内容の共有 （３）男性の育児休暇に関連する新聞記事を抜粋し、情報共有 （４）意見交換
感想等	研修では様々な学びや感じることがあり、その内容をあらためて職場で報告や共有ができたことで、さらに自分の中への落とし込みができたように思う。 また、今回は少人数でかしこまった形式ではない報告会で実施したこともあり、話をしてみると、興味を持って聞いてもらうことができ、その場で思い思いに和やかに意見交換をすることができたように感じる。 「男女共同参画」と言葉だけを聞くと、みんな構えてしまい、堅苦しく考えてしまいがちだが、このような形でもっと気軽に考えたり、話せたりする場所やきっかけ作りも必要だと感じた。

「地域リーダー研修報告会＆意見交換会」

［４班：園田　百合枝（天草市）］

日時	令和元年 12 月 6 日（金）　18:30～21:00
場所	プラザホテルアネックス 9 階（カジュアルレストラン ピア 9）
参加者	市職員 5 名、一般市民 1 名
形式	地域リーダー研修報告会及び意見交換会
ねらい	研修で学んだことの報告と今後の男女共同参画推進の啓発事業の取り組みについて考えてもらう。
内容	研修資料より ・男女共同参画について ・イクメンとイクボスについて ※2020 つんのでフェスタについて（上野千鶴子氏講演会への参加について）
感想等	男女共同参画課の業務内容を少しでも理解してもらう事及び研修会の報告を行った。 まず、立教大学萩原先生の講座資料より、男女共同参画の流れ、チャールズ・ハンディの 4 つのワークの考え方とジェンダーギャップ指数（男女格差指数）ついての現状を説明した。 次にファザーリングジャパンの東さんの「イクメンとイクボスが社会を変える」の講座資料より、「枠からはみ出した所から答えが見つかる」「イクメン→イクジイ→イクボスの流れ」「父親像の変化」「男性の育休」について意見交換を行った。 実際に「子供のオムツ替えは息子の役割になっている」「お互いに仕事を調整して休みを取っている」という意見があった。以前に比べるとイクメンは進んでいるとの意見もでた。 最後に研修会を通して、男女共同参画社会がめざす町は、「多様性を大事にする町」「男性の意識改革が女性活躍推進の鍵」ということになるため、今後の私の取り組みとしては、男性を対象にしたセミナー（介護、料理教室等）を行っていきたいという事を話した。 男性へのセミナーは必要な事だと意見をいただいたので、再度、積極的に進めていこうと思った。

「研修報告会」

［４班：川島　ひとみ（宇城市）］

日時	令和元年 12 月 10 日（火）15:30～16:30
場所	宇城市役所　新館第 2 会議室
参加者	宇城市男女共同参画社会推進委員 10 名、市職員 3 名
形式	研修報告、質疑応答
ねらい	・県外研修で得た情報の共有 ・先進地の活動内容を学び、自分たちができる活動について考える。
内容	宇城市男女共同参画社会推進委員会の第 4 回自主勉強会として行った。 ・3 日間の研修内容の報告 ・講話の主な内容とその中で特に印象に残ったこと ・「エセナおおた」でのスタッフとの交流会
感想等	今回の県外研修に参加するにあたって、不安があったこと、すばらしい講師の中で、特に印象に残ったファザーリングジャパンの東浩司さんの「いい父親ではなく、笑っている父親になろう」などの講話、「エセナおおた」での交流意見交換会において、「男性の家庭参画を進めるために必要なこと」というテーマで話し合ったことなどを中心に報告した。 また、研修日程の間も他の参加者との交流を行い、印象的な参加者のことなどを報告し、推進委員の方から、今回の研修参加について、ねぎらいと今後の活動に期待するとの意見をいただいた。 報告する中で、特に若年層に男女共同参画についての啓発を行い、みんなが協力して、介護、子育て、家事などができるように、まずできる人がする、お互いに感謝し、褒めあうことが大事だとあらためて思った。

「研修報告会」

［４班：村上　雅宣（宇城市）］

日時	令和元年 12 月 10 日（火）15:30～16:30
場所	宇城市役所　新館第 2 会議室
参加者	宇城市男女共同参画社会推進委員 10 名、市職員 3 名
形式	研修報告、質疑応答
ねらい	・県外研修で得た情報の共有 ・先進地の活動内容を学び、自分たちができる活動について考える。
内容	宇城市男女共同参画社会推進委員会の第 4 回自主勉強会として行った。 ・3 日間の研修内容の報告 ・講話の主な内容とその中で特に印象に残ったこと ・「エセナおおた」でのスタッフとの交流会
感想等	報告する中で、推進委員の方からは、自分自身が以前参加した、県外研修のことや、女性が地域の色んな役員になることの難しさ、まだまだ男女共同参画が進んでいかないことなどの意見が出された。 自分も含めて、公的（パブリック）な場面では、人権意識をもった行動・発言はできるが、私的な場面では、今までの経験や慣習が妨げとなり、一歩踏み出せないことが少なからずある。そこから、少しでも意識改革を図っていかないと男女共同参画は進んでいかないと改めて思った。 今は、多様性の時代であり、性別を問わず一人ひとりがいきいきと暮らせる社会づくりについて、改めて学ぶことができ、人権を大切にする考え方を基礎として、家庭・職場・地域で活動することをめざしていきたいと思う。 推進委員の方からは、今回の研修参加について、ねぎらいのことばと今後の活動に期待するとの意見をいただいたので、今の気持ちを忘れずにいきたい。

「リーダー研修報告会」

［４班：谷川　淳子（益城町）］

日時	令和元年 12 月 10 日（火）
場所	勤務先（益城町立第五保育所）
参加者	園長１名、職員４名
形式	フリートーク
ねらい	男女共同参画社会の実現について理解を深め、個々の意識を高める
内容	➢ 研修生による、県外研修の報告 　⅄ 各講師による講話について資料の回覧と説明 　⅄ 「エセナおおた」（大田区立男女平等推進センター）の施設紹介と講座等の取り組み内容について ➢ 男女共同参画社会について意見交換
感想等	各方面からの講師の話は、自分自身が十分に伝えられなかったところも多かったと思うが、職員も初めて聞くこともあり、多少は気づきや学びになったようであった。講師の先生方も、それぞれに研究や取り組みを深めておられるので、非常に興味深く、また、少し難しいこともあったが新鮮な気持ちで研修に臨み、非常に勉強になったと伝えた。男女共同参画社会の意義は、家庭や職場(社会生活)の中で、いろいろな現状を見聞きすることもあるので、多少の意識は持っているようであった。職場においては、男女が変わりなく仕事をしていても、出産や育児、介護になると女性が休業したり、休暇をとっている現状がまだ多いという意見や、男性の育児休暇の取得の推進も図られてきつつあるが、企業によってはまだ難しいところがあるのではないかという意見もあった。また、学校教育の場では、家庭科教育が男女別ではなく、男子も女子も学べるようになってきていることはこれからの時代に役立っていくのではないか等の意見も出た。今後、機会があるときには研修に参加して、男女共同参画社会の構築に理解を深めてほしいことを伝えた。

「自主研修報告書」

［4 班：岩下　幸子（益城町）］

日時	令和元年 12 月 10 日（火）
場所	益城町役場仮設庁舎
参加者	町職員 6 名
形式	研修報告、意見交換
ねらい	・研修内容と自身が感じたことを報告し、情報共有を図る。 ・職場、地域、家庭における男女共同参画を考える。
内容	・研修資料を回覧し、研修内容を自身の感想を交えながら報告。 ・先進施設の状況や取り組みを報告。 ・職場や家庭における状況等を出し合い、現状の課題や今後どのようになっていけばよいかなど意見交換を行う。
感想等	町職員に対して報告会を行った。研修資料を用いて講話の内容や先進施設の事業や各取り組み等報告した。特に、4 班が分科会でテーマとした「男性の家庭参画を進めるために必要なこと」と東浩司氏の講話「イクメンとイクボスが社会を変える！」について話を進めた。 業務終了後でもあり、男女共同参画の担当でない職員にも参加してもらったが、みなさん真剣に聞いていただいたし、それぞれの意見をいただいた。 家庭においては、男性が家事や育児に積極的に参加しているという意見が挙がった。しかし、「自分はやっている。（男）」「相手はやってくれている。（女）」というニュアンスが見え隠れする。これが、どちらがやっても当たり前・普通という感覚に至るまではもう少しかかりそうだ。 さまざまな立場の人が男女共同参画について理解を深めていくことで、根づいてしまっている「無意識のバイアス」を少しずつでもほぐす力になれるよう、私も担当職員として、リーダー研修に参加した者として、携わっていきたいと考える。

編集後記

１班はこの研修にそれぞれの個性と能力に応じワンチームで取り組んだ。元教諭のＫさんが文書のチェックを行い、Ｎさんは Ｌ Ｉ Ｎ Ｅの機能を駆使して班員をサポートし、研修中の思い出の写真はＴさんが沢山撮影し、Ｍさんの司会進行で意見交換会が有意義となった。
私も編集係として報告書作成に協力できたことを嬉しく思う。研修生全員の思いの詰まった報告書を多くの人に見ていただきたい。

管澤　徳子（1 班/合志市）

編集係として、班の原稿をまとめる役割であったが、班の皆さんが決められた書体や様式で提出してくださったので、修正箇所も少なく負担は無かった。
最後の編集会議に参加できず、編集係の皆さんにご迷惑をかけたことが心残りであるが、研修生全員の思いが詰まった良い報告書になればと思う。

諸冨　友木（2 班/荒尾市）

デザインの仕事をしておりパソコンの操作に慣れているため、自ら編集係に手を上げた。
人見知りで人前で話すことが苦手だったので、得意分野な編集係になれて良かったと思う。先に班の皆さんの報告書を見ることが出来き、とても刺激を受けた。この受けた刺激を今後も仕事に生かしていきたいと思う。

田中　悦子（３班／長洲町）

作業内容について詳しくわからないまま編集係に立候補してみた。
県外研修後、いよいよ編集係の出番。班のみなさんから届く各報告書等を読み返しながら研修を懐かしく思い、いち早く研修を振り返る機会をいただける編集係になってよかったと感じた。この報告書を多くの人に見ていただけたらと思う。

岩下　幸子（4 班/益城町）

令和元年度（２０１９年度）
男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業
研修報告書

発 行 者：熊本県
所　　属：環境生活部県民生活局
　　男女参画・協働推進課
発行年度：令和元年度（２０１９年度）